

2023年度 関西大学博物館実習

2023年度の関西大学博物館実習は、受講者48名で、内訳は表の通りである。関西大学では博物館実習を通年授業として設けており、金曜日の4時限～5時限のクラスと、土曜の4時限～5時限のクラスがある。それぞれのクラスでは学内での博物館実習と実習展の開催、学外見学実習を行っている。カリキュラムは、後掲の「2023年度関西大学博物館実習日程」の通り実施した。

春学期には、「資料の基礎的な取り扱い」から「資料の梱包」、「資料の調書の取り方」へと段階的に実習し、あわせて月に1程度日曜日を利用した近畿圏の博物館・美術館施設の見学実習を実施することで、博物館における学芸業務全般についての基礎的な知識の習得を行うようにしている。

秋学期には、実習生による「関西大学博物館実習展」の開催に向けて具体的な作業を行う。この「関西大学博物館実習展」は、習得した学芸業務についての知識と経験、受講生の専門分野や興味を基に、グループを結成して準備、実施する展示会で、博物館実習の集大成としての行事である。今年度は、学生グループが自主的に5つのテーマを設定し、展示資料の借用交渉と展示方法などの折衝を続け、充実した内容での展示会を実施することができた。内容と来館者アンケートの結果を実習展の報告として収録した。

実習展終了後には博物館関連科学や研究活動についての実習と講義、学芸業務従事者を招いた講演会、講義最終日は実習の反省会を開催して、2023年度の博物館実習のカリキュラムを終了した。

2020年度・2021年度の2年間は新型コロナウイルスの影響を受けて、オンライン授業の導入や「関西大学博物館実習展」の開催手法に変更を加えるなど、授業の実施にあたって様々な感染症対策を講じた。2022年度・2023年度は感染状況を注視しながらも、計画通りに授業を実施することができた。

また「関西大学博物館実習展」の最終日である11月17日（金）には、同日に本学で開催した全国大学博物館学講座協議会西日本部会大会の参加者約40名が見学を訪れ、「関西大学博物館実習展」の成果を報告するとともに、博物館関係者による専門的な指導を頂戴することができた。

今年度の博物館実習担当教員は、本学教員とともに博物館・美術館や研究機関、行政機関に所属される学芸員、専門担当者を委嘱してあつた。

2023年度 担当教員

米田 文孝	文学部特別契約教授	黒田 一充	文学部教授
井上 主税	文学部教授	原田 正俊	文学部教授
高久 智広	文学部教授	橋寺 知子	環境都市工学部准教授
西本 昌弘	文学部特別契約教授	一瀬 和夫	京都橘大学名誉教授
明尾 圭造	大阪商業大学教授	河内 晋平	株式会社 studio 仕組代表取締役
伊藤 健司	関西大学文学部非常勤講師	高田みちよ	高槻市立自然博物館主任学芸員
北川 博子	関西大学文学部非常勤講師	佃 梓央	一茶庵宗家
高見 國一	刀匠	西川 卓志	関西大学文学部非常勤講師
寺西 貞弘	関西大学文学部非常勤講師		

藤枝 宏治 藤枝春月代表
 山口 卓也 関西大学文学部非常勤講師
 山下 大輔 関西大学博物館
 伊藤 信明 関西大学年史編纂室

文珠 省三 関西大学文学部非常勤講師
 合田 茂伸 関西大学博物館
 佐藤健太郎 関西大学年史編纂室

2023年度博物館実習受講生数

全体

		3年次	4年次	合計
学 部	法 学 部			
	文 学 部	34	3	37
	経 済 学 部			
	商 学 部			
	社 会 学 部			
	政策創造学部		1	1
	外国語学部			
	総合情報			
	社会安全学部			
	理工系学部	2	1	3
	小 計	36	5	41
大 学 院				6
科 目 等 履 修 生				1
総 合 計				48

院・学部・年次別	3年次	4年次	大学院	科目等	合計
1組（金曜日）	28				28
2組（土曜日）	8	5	6	1	20
合 計	36	5	6	1	48

2023年度 関西大学「博物館実習」日程

授業時間
 1組：金曜日 4・5時限 (14:40～17:50)
 2組：土曜日 4・5時限 (14:40～17:50)

2023.4.1

月	1組 (金曜)		2組 (土曜)	
	A班	B班	A班	B班
7/金	担当者全員 第1学舎4号館D304 寺西	クラス編成、実習簿・日程表配布等	担当者全員 第1学舎4号館D304 寺西	クラス編成、実習簿・日程表配布等
14/金	博物館実習室	文化財保護法の解説	博物館実習室	文化財保護法の解説
21/金	山口 博物館実習室	考古資料の取り扱い 伊藤(信) 古文書実習室(D棟)	佐藤 古文書実習室(D棟)	歴史資料の取扱い 文珠 増築棟セミナー室
28/日	黒田・石立・中谷 大阪歴史博物館・大阪中之島美術館	博物館等施設見学 (大阪府下博物館園)		
28/金	会田・今井 増築棟セミナー室	博物館における資料研究 (公開講演会)		
5/金	こどもの日(祝日)		昭和の日(祝日)	
12/金	明尾 博物館実習室	美術資料の取扱い	文珠 増築棟セミナー室	考古資料の取扱い 北川 博物館実習室
14/日	井上・山下 京都国立博物館・細見美術館・並河跡之七五三記念館	博物館等施設見学 (京都方面美術館)	山口 博物館実習室	美術資料の取扱い 北川 博物館実習室
19/金	伊藤(信) 古文書実習室(D棟)	歴史資料の取扱い	明尾 博物館実習室	伊藤(健) 博物館実習室
26/金	明尾 博物館実習室	美術・工芸資料の調査の取扱い 西川 増築棟セミナー室	西川 博物館実習室	美術・工芸資料の調査の取扱い 伊藤(健) 博物館実習室
2/金	佃 博物館実習室	お茶と文化	佃 博物館実習室	お茶と文化
4/日	佃・今井 一茶庵(13:30～)	資料取扱い・鑑賞(茶室)		
9/金	西川 増築棟セミナー室	歴史・考古資料の調査の取扱い 西川 博物館実習室	明尾 博物館実習室	民俗資料の取扱い・民具調査と採集方法
11/日	米田・山下 滋賀県立琵琶湖博物館	博物館等施設見学(近郊)	原田(正) 古文書実習室(D棟)	文書資料の取扱い
16/金	西川 博物館実習室	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版 (博物館連絡)印刷データの提出方法について	会田 博物館実習室	展覧会企画・ポスター作成/図録編集・出版 (博物館連絡)印刷データの提出方法について
23/金	河内・高見 増築棟セミナー室	刀剣の取扱いの基礎と方法	河内・高見 増築棟セミナー室	刀剣の取扱いの基礎と方法
30/金	米田・高久 博物館実習室	夏季休暇中の日程表配布及び実習展の説明・班編成	米田・井上 博物館実習室	夏季休暇中の日程表配布 及び実習展の説明・班編成

月	1組 (金曜)		2組 (土曜)	
	日	A班	日	A班
7/金	藤枝 増築棟セミナー室	B班 表具の取り扱いと保存技術	藤枝 増築棟セミナー室	B班 表具の取り扱いと保存技術
9/日	博 物 館 等 施 設 見 学 (選択制①) 近畿園博覧会見学 (和歌山方面)			
14/金	一瀬 博物館実習室	展示開発ワークショップ	一瀬 博物館実習室	展示開発ワークショップ
16/日	一瀬・石立 博物館等施設見学 (見学者動態調査・製作途中評価)			
21/金	西川 増築棟セミナー室	資料写真撮影の目的と方法	合田 増築棟セミナー室	資料写真撮影の目的と方法
2/水 ~4/金	高久・佐藤・原田(替) 東京国立博物館・国立西洋美術館	博 物 館 等 施 設 見 学 (東京都下宿泊研修2泊3日)		
2/水・3/木	夏季休業中	館長・井上 キャズミュージアム 博物館実習室他		
20/水	西本・佐藤 元興寺文化財研究所・奈良国立博物館	博 物 館 等 施 設 見 学 (選択制②)		
4限	黒田 博物館実習室	民俗資料の取り扱い・民具調査と採集方法	秋分の日(祝日)	
5限	西本 古文書実習室(D棟)	文書資料の取り扱い	橋守 博物館実習室	文化遺産としての建造物
29/金	橋守 博物館実習室	文化遺産としての建造物		
1/日	橋守・伊藤(信) 行中遺具館・神戸居留地周辺景観観察	博 物 館 等 施 設 見 学 (神戸市 建造物・景観見学)		
4限	井上・高久 博物館実習室	展示計画プレゼンテーション	4限 米田・高久 博物館実習室	展示計画プレゼンテーション
5限	文殊 博物館実習室	展示における照明と生物被害	5限 文殊 博物館実習室	展示における照明と生物被害
4限	伊藤(健) 博物館実習室	資料の借用と運送の現状	4限 伊藤(健) 博物館実習室	資料の借用と運送の現状
5限	山下 博物館実習室	展示の技術(展示ケースの開閉、展示台の使い方など) / 実習展での資料借用と梱包/印刷物等の提出方法について	5限 山下 博物館実習室	展示の技術(展示ケースの開閉、展示台の使い方など) / 実習展での資料借用と梱包/印刷物等の提出方法について
20/金	高久・山口 博物館実習室	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業)	井上・北川 博物館実習室	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業)
4限	黒田 博物館実習室	博物館の普及広報と情報化	黒田 博物館実習室	博物館の普及広報と情報化
5限	山下 博物館実習室	インタープリテーション	山口 博物館実習室	インタープリテーション
3/限	文化の日(休日)		創立記念日(休日)	
10/金	米田・明尾 博物館実習室	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業)	井上・山口 博物館実習室	展示指導及び実習展準備作業(学生による自主作業)
12/日 ~17/金	担当者全員(講評) 博物館実習室	実 習 展 10:00~16:00		
24/金	高田 博物館実習室	自然史資料の保存と整理	高田 博物館実習室	自然史資料の保存と整理
26/日	高田・今井 自然観察・自然系博物館	博 物 館 等 施 設 見 学 (自然観察)		
11				講 評 (11/17 16:20~17:50)・撤 去 (11/17・11/18)

月	1 組 (金 曜)		2 組 (土 曜)	
	日	A 班	日	A 班
12	1/金	合田 博物館実習室	2/土	合田 博物館実習室
	8/金	一瀬 博物館実習室	9/土	一瀬 博物館実習室
	15/金	米田・山下 博物館実習室	16/土	井上・山下 博物館実習室
	22/金	西川 博物館実習室	23/土	西川 博物館実習室
	5/金	(冬季休業) 担当者全員 第1学舎4号館D304	6/土	担当者全員 第1学舎4号館D304
1	12/金	1年間の反省・学芸員の課題		
	19/金	予備日		
	20/土 締切	(飛出場所) 博物館事務室	博物館実習簿及びレポートの飛出 [レポート論題]「自由題」 A4判 横書き 4000字 (原簿用紙・ワープロ作成いずれも可)	
2	14/水～	(受取場所) 博物館事務室	博物館実習簿及びレポートの返却 受取時間 10:00～16:00 (12:30～13:30は除く)	

【実習上の諸注意】

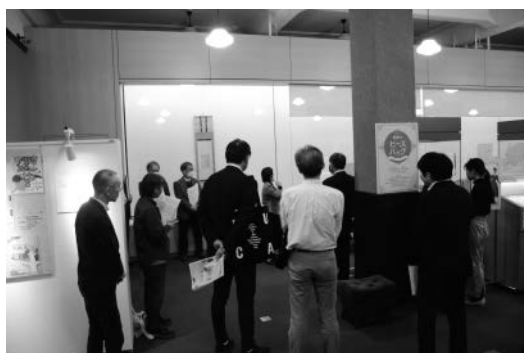
- (1)実習に関する全ての連絡は、開大LMSの「お知らせ」または「メッセージ」にて行うので、実習のある日の前日には、必ず開大LMSをチェックすること。
また、休日に実施する実習・見学等の詳細については、その都度授業中に指示することもあるので注意すること。
- (2)見学は時間的に制約される場合が多いので、時間厳守で集合のこと。
- (3)館内においては、館前を守り、学生としての品位と自覚が必要。また、万年筆・ボールペン等は使用しないこと。鉛筆のみ可能。
- (4)実習簿は所定の日に必ず提出すること。その際、配付した資料・見学実習等で集めた資料等も実習簿にファイルしておくこと。また、採点後は各自へ返却するので必ず受取りに来ること。



博物館実習展作業風景



博物館実習展会場



展示会風景



第1班 十二支の変遷



第2班 装丁維新—綴じ方の歴史—



第3班 江戸髪結文化～髪と歴史をほどく～



第4班 お～盛んやね、大阪！大大阪展



第5班 新旧万博から見る大阪史

関西大学 2023年度 博物館実習展

関西大学博物館実習展
十二支の変遷

【開催時間】 10時～16時
【入館料】 無料
2023年 11/12 (日) ~ 11/17 (金)

関西大学博物館 特別展示室 (簡文館内)
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL: 06-6368-1171, FAX: 06-6368-4926

主催: 関西大学博物館
協賛: 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号 関西大学博物館 特別展示室 (簡文館内)

2023年度 関西大学博物館実習展
装丁維新
綴じ方の歴史

2023 11.12(日) ▶▶▶ 11.17(金)

【開催時間】 10:00 ▶▶▶ 16:00
【入館料】 無料 公式 Instagram QR▶▶▶
【会場】 関西大学博物館 特別展示室 (簡文館2階)

【位 置】 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
【TEL】 06-6368-1171
【アクセス】 阪急園田線駅より徒歩10分

関西大学博物館

江戸髪結文化
髪と歴史をほどく

11/12 (日) より
11/17 (金)迄

開催時間 10:00～16:00
入館料 無料
場所 関西大学博物館特別展示室 (簡文館内)
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
Tel: 06-6368-1171

11 / 12 ▶▶▶ 17 (日) (金)

場 所: 関西大学博物館
特別展示室(簡文館内)
開催時間: 10:00～16:00
(入館15:30まで)
休 館 日: 会期中無休
入 館 料: 無料

お盛んやね、大阪!
大阪展

2023年度 関西大学博物館実習展
11/12 (日) ▶▶▶ 11/17 (金)

開催時間 10:00～16:00
入館料 無料
場 所 関西大学博物館 特別展示室 (簡文館 2階)
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-1171

二〇二三年度 関西大学博物館実習展
新旧万博から見る
大阪史

2023年 11.12 (日) ▶▶▶ 11.17 (金)

開催時間 10:00～16:00
入館料 無料
場所: 関西大学博物館特別展示室 (簡文館内)
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-1171

2023年度 関西大学博物館実習展

学芸員をめざす学生たちが5つのテーマで展示を行います。
学生たちが主体的に取り組んで作り上げた展示をご覧ください。



十二支の変遷

十二支の起源は、中国の殷代に遡ります。当初は、十二年を周期とする木星の位置を示すために使われていました。十二支に現在と同様の動物を充てるようになったのは、後漢からです。さらに隋代では、獣頭人身像の十二支が出現し、近国の新羅や日本などに伝播します。その代表としてキトラ古墳壁画が挙げられます。中世から近世の日本では、絵巻や曆に描かれた十二支が主となり、中でも現在のカレンダーにあたる「大小曆」、その出来栄を競い合って発展していきました。本展示では古代に始まり、近現代に至るまでの十二支の変遷をご覧ください。



装丁維新 - 綴じ方の歴史-

皆さんが普段読んでいる本の制作過程は案外知られていないことと思います。日本では糸を使った伝統的な方法で装丁された「和装本」がありましたが、明治維新による西洋化によってその装丁は針金などを使った西洋的なものになり「洋装本」が徐々に広まるようになりました。その中でも、和装本と洋装本の過渡期における装丁は「ボール表紙本」といい、文明開化を経験した日本にしか存在しない独特な装丁となっています。本展ではその歴史の転換点であるボール表紙本を中心とし、日本の書籍の装丁がどのように変わっていったのかを紹介いたします。そしてこのような変化が何をもたらしたのか、是非皆さんの目で確かめ下さい。



江戸髪結文化 ~髪と歴史をほどく~

かつて平安時代の女性は髪を長く垂らす垂髪という髪型が主流でした。平安から戦乱の時代を経て、江戸時代には動きやすいように髪をまとめることが一般的になりました。現代の私達は髪もお洒落の一環として、自由に髪型を楽しんでいる一方で、江戸時代の女性は身分・年齢・既婚・未婚で髪型が決まっていました。規定が細かく定められていた中でも女性たちは数多の髪型を生み出していき、彼女たちもお洒落を楽しんでいたのです。本展は、江戸時代の女性の髪結に焦点を当て、髪型の多様さを当時の風俗画から読み解いていきます。また、関西大学博物館が所蔵するガラス櫛やガラス簪をご覧ください。意匠を凝らした品々をぜひご堪能ください。



お~盛んやね、大阪！大大阪展

皆さんは「大大阪時代」と聞いて何を思い浮かべますか？「大大阪時代」とは、大正から昭和初期にかけて大阪の経済や文化が大きく発展した時代を指します。関東大震災や地域拡張などの影響により、1925(大正14)年には大阪市が東京市の人口を上回り日本最大の都市として急成長を遂げました。私たちの生活に欠かせない社会インフラが発達、整備されると共に、大衆文化も花開いたことで市民の暮らしがより一層豊かになりました。

本展では、「大大阪の幕開け」、「世はまさに大大阪時代!」、「大大阪と今」の3部構成とし、大阪における画期となった時代の一端をご紹介します。当時の大阪の華やかさに触れ、「大大阪」に思いを馳せ、身近に感じていただければ幸いです。



新旧万博から見る大阪史

1970年に開催された「日本万国博覧会」から、2025年に開催される「日本国際博覧会」を軸として、万博に関連して発展していった大阪の歴史を紹介します。特に、万博の開催地である「大阪」を中心にインフラ、都市景観の写真を取り上げます。さらに、1970年では万博をきっかけに生まれたものや流行したものが変化していく様子を、2025年では1970年の万博との比較をして万博によってまち、ひいては大阪がどのように変わっていったのかという内容を取り上げていきます。そして1970年から2025年までを振り返り大阪の歴史がどのように進展していったか、そして、2025年の万博を機に「大阪」はどのように進化していくのか、新旧万博を通じて今一度振り返ります。



関西大学博物館
Kansai University Museum

〒564-8680大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
TEL:06-6368-1171 FAX:06-6388-9928
<https://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>

※アクセス等はホームページでご確認ください。

関西大学博物館実習展 アンケート

本日は関西大学博物館実習展にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。今後の実習展の参考にさせていただきますので、アンケートにご協力お願いいたします。なお、いただいたご回答につきましては、アンケート集計の目的以外には使用いたしません。率直なご意見、ご感想をお聞かせください。

【お答え方について】

性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性	<input type="checkbox"/> 回答しない
年齢	<input type="checkbox"/> 0代未満	<input type="checkbox"/> 10代	<input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上
住所	<input type="checkbox"/> 吹田市 <input type="checkbox"/> 大阪府 <input type="checkbox"/> 兵庫県 <input type="checkbox"/> 京都府 <input type="checkbox"/> 奈良県 <input type="checkbox"/> 和歌山県 <input type="checkbox"/> 滋賀県 <input type="checkbox"/> 三重県	<input type="checkbox"/> 京都府(京)	<input type="checkbox"/> 和歌山県(和)
所属	<input type="checkbox"/> 大阪大学 <input type="checkbox"/> 大阪府立大学 <input type="checkbox"/> 大阪府立大学附属高等学校 <input type="checkbox"/> 大阪府立大学附属高等学校	<input type="checkbox"/> 大阪府立大学(大)	<input type="checkbox"/> 大阪府立大学(高)
今年の実習展を知ったきっかけについてお聞かせください。	<input type="checkbox"/> 授業 <input type="checkbox"/> ポスター・広告 <input type="checkbox"/> 関西大学 HP <input type="checkbox"/> SNS <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> その他()		
博物館・美術館には訪ねますか。	<input type="checkbox"/> 週1回以上 <input type="checkbox"/> 月1回以上 <input type="checkbox"/> 年に一回以上 <input type="checkbox"/> ほとんど行かない		
過去に当館を利用されたことはありますか。	<input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 2-4回以上 <input type="checkbox"/> 5回以上 <input type="checkbox"/> 毎年		

【各展の展示について】

※5段階評価 (5=大変良い、4=良い、3=普通、2=悪い、1=大変悪い) の項目のどれか1つを選び、該当する数字に○をつけてください。

1. 「十二支の愛選」の展示について

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

2. 「駿丁維新一級じ方の歴史」の展示について

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

3. 「江戸慶緒文化-髪と歴史をほどく～」の展示について

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

4. 「お〜盛んやね、大阪！大坂展」の展示について

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

5. 「新田万博から見る 大坂史」の展示について

①展示内容について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

②展示の見やすさについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

③展示の解説・パネルについて (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

④この展示に対しての興味・関心について (5 . 4 . 3 . 2 . 1)

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などございましたらご自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
アンケート用紙は受付でスタッフにお渡しください。

2023（令和5）年度博物館実習展 アンケート分析結果に関する報告

はじめに

今回、我々博物館実習生は、令和5年11月12日（日）～11月17日（金）の6日間に渡り博物館実習展を開催した。実習生は「十二支の変遷」、「装丁維新一綴じ方の歴史」、「江戸髪結文化～髪と歴史をほどく～」、「お～盛んやね、大阪！ 大大阪展」、「新旧万博から見る大阪史」の5つの班に分かれ、それぞれのテーマを設定したうえで展示を行った。同時に、来館者に対してアンケート調査を実施し、各々の回答をまとめている。本稿では、アンケート結果の分析と考察を行う。

1. 調査概要

(1) 調査目的

調査目的は今回の博物館実習展に対する来館者の感想、評価等について把握し、分析を行うことである。また、今年度の実習展における分析結果が、来年度の実習展において活用されるようにするためである。

(2) 調査項目

アンケートの質問は全班共通であり、来館者自身についての7項目と、各班の展示についての5項目で構成されている。来館者自身についての質問項目は以下の通りである。

- ①性別
- ②年齢
- ③住所
- ④所属
- ⑤実習展を知ったきっかけ
- ⑥博物館・美術館を訪れる頻度
- ⑦過去に関西大学博物館を訪れた回数

(3) 回収状況

計304人

2. 調査結果と分析

図1は、来館者の性別を示したものである。男性が全体の5割を超えているものの、女性も全体の4割を占めており、大きな差は無い。

回答しないを選んだ人が1%居たことから、この選択肢は来年度も必要であると思われる。

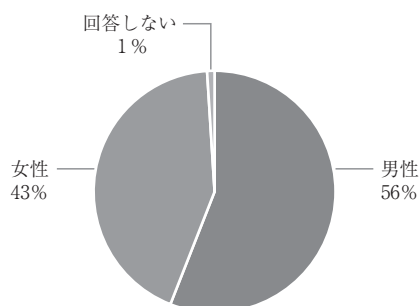


図1 来館者の性別

図2は来館者の年齢層を示したものである。選択肢として用意していた10代未満の項目は、回答数が0であったためグラフから除外している。

10代と20代が合わせて全体の45%を占めているのは、大学で開催した実習展ならではの結果であろう。50代、60代と比較して30代、40代が少ないことも、同様の理由であると推測する。

図3は来館者の住所を示したものである。三重県は0%であるが、1人の回答があったため、除外せずグラフに組み込んでいる。

吹田市と大阪府が全体の6割を超えており、近隣の方が多く来館したということが分かる。その他の項目に関しては、最終日の全国大学

博物館学講座協議会西日本部会大会の影響を受けて数を増やしたと考えるのが妥当である。

図4は来館者の所属を示したものである。小学生以下と回答したのは0人であったため、グラフから除外している。

関西大学の学生と並んで、一般の方が37%

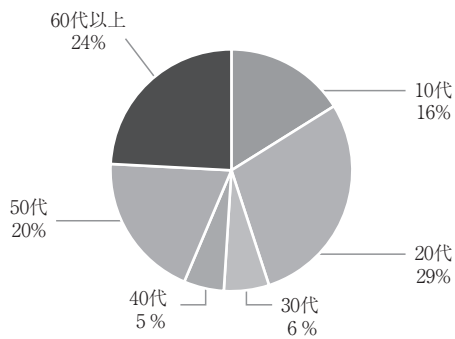


図2 来館者の年齢層

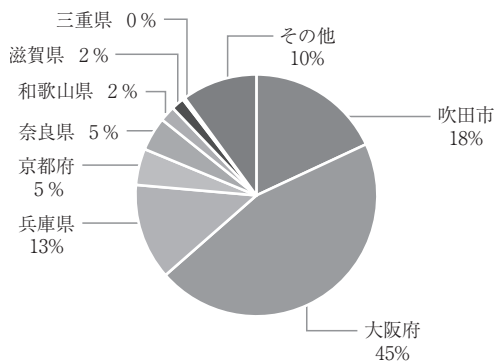


図3 来館者の住所

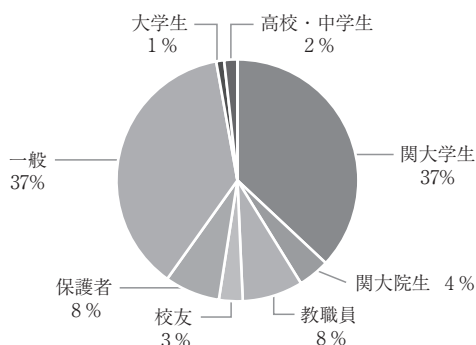


図4 来館者の所属

と高い数値になったことは、図3と同様に、最終日の全国大学博物館学講座協議会西日本部会大会の影響であると推測する。

図5は来館者が実習展を知ったきっかけを示している。全体の中で最も多かったのが知人という回答であり、これは実習生が自ら行動して来館を呼びかけた結果であると考えられる。SNSと回答したのは僅か3%であったことから、SNSの運用方法は改善する余地があると考えられる。

図6は来館者が博物館・美術館を訪れる頻度を示したものである。最も多かったのが年1回以上と回答した人であり、次点が月1回以上と回答した人であった。このことから、年に1度は博物館を訪れている人が、全体の75%を占めていることが分かる。今回の実習展における来館者は、展示を見慣れている方々であると考えるのが妥当であろう。

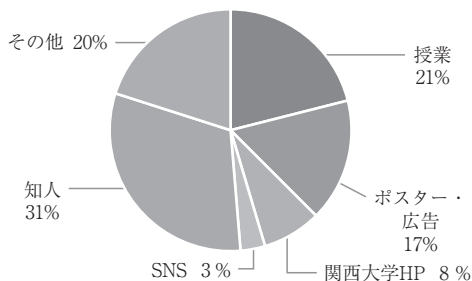


図5 来館者が実習展を知ったきっかけ

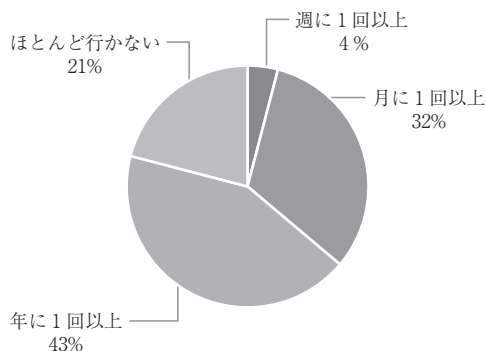


図6 来館者が博物館・美術館を訪れる頻度

図7は、来館者が関西大学博物館を訪れた回数を示したものである。初めてと回答した人が全体の約5割を占めていることから、実習展が無ければ来館することの無かった層も呼び込めたと考えられる。

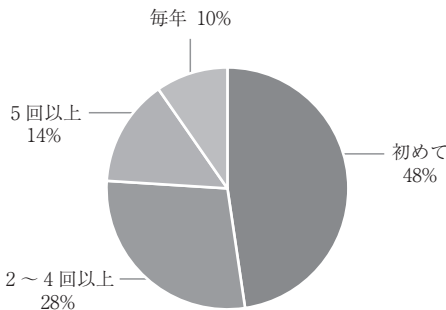


図7 来館者が関大博物館を訪れた回数

3. 来館者についての考察

図2、図4から、今回の実習展における来館者の約4割が、本学に所属している学生・院生であることが分かる。そのうち、授業がきっかけで実習展を知った人は約半数である。これは、来年度以降に実習展を行う学生たちが、積極的に来館した結果であると推測する。

また、10代未満の回答が全く無かった要因として、アンケートの内容、それに伴い発生

する拘束時間が、小さい子どもにとって大人以上の負担になると判断したことが挙げられる。これは、子どもの親にも言えることである。10代未満の子どもを連れた来館者が居たことは確かであるため、アンケートを渡す総合受付の担当者が、皆同様の判断でアンケート用紙を渡さなかったと推測する。

今年度の実習展は、最終日に全国大学博物館学講座協議会西日本部会大会の方々が来館された。そのため、来館者の住所には関西圏以外の回答が多く見られたほか、図4に示した所属の項目では、一般と回答した人の割合が例年と比較して増加したと考える。その他の項目においても多少の影響があったと考えるのが妥当であろう。

おわりに

考察でも言及したように、今回の実習展には全国の先生方が来館されたこともあり、非常に的確なご指摘を数多く頂戴した。各班のアンケート結果の分析と、記述式の回答については、来年度以降の実習生にも目を通していただき、活用してもらえると嬉しく思う。

(23M2009 塩川夏子)

I. 十二支の変遷

1. はじめに

我々は十二支の図像表現に関する展示を行った。古代から現代における、十二支の姿が変化する流れを来館者に知っていただくことが目的である。

ここでは、来館者に対して行ったアンケート調査の結果から、我々の展示に対する来館者の評価を分析する。

2. 問いについて

アンケートは5項目で構成されている。①から④の4項目は選択式の5段階（5 = 大変良い、4 = 良い、3 = 普通、2 = 悪い、1 = 大変悪い）で評価をする形式であり、⑤は自由記述とした。質問項目は以下の通りである。

- ① 展示内容について
- ② 展示の見やすさについて
- ③ 展示の解説・パネルについて
- ④ この展示に対するの興味・関心について
- ⑤ 展示の中で最も印象に残った資料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

3. 分析結果

(1) 選択式の問いについて

• 展示の内容について

図1は展示の内容に対する評価を示したものである。この問いに大変悪いと回答したのは0人であったため、グラフから除外している。一方で、悪いと回答した人は1人居たことから、0%であるがグラフに組み込んでいる。

大変良い、良いと回答した人が全体の95%であることから、好評と言える。展示物とそ

れらに関する説明が、来館者の理解を得られるものであったことが要因であると推測する。

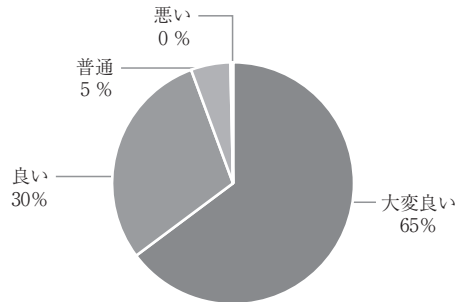


図1 展示の内容について

• 展示の見やすさについて

図2は展示の見やすさについての評価を示したものである。この問いに大変悪いと回答したのは0人であったため、グラフから除外している。一方で、悪いと回答した人は1人居たことから、0%であるがグラフに組み込んでいる。

展示の内容と同様に好評であり、展示物の間隔や展示台の使い方に拘った結果であると考ええる。

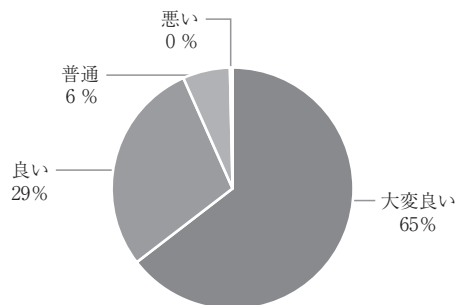


図2 展示の見やすさについて

・展示の解説・パネルについて

図3は展示の解説・パネルに対する評価を示したものである。この問いに大変悪いと回答したのは0人であったため、グラフから除外している。

図1、図2と比較して、普通と回答した人が2倍近くになっていることが分かる。また、大変良いと回答した人も6割を超えておらず、改善すべき点を考察する必要がある。

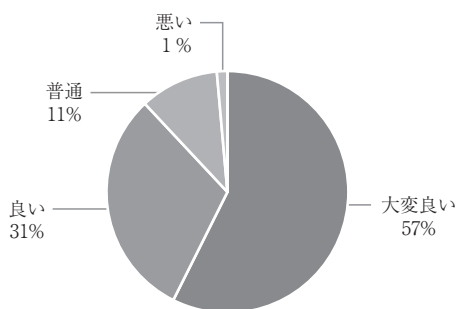


図3 展示の解説・パネルについて

・この展示に対するの興味・関心について

図4は「十二支の変遷」に対する来館者の興味・関心について示したものである。この問いに大変悪いと回答した人が1人居たことから、0%だがグラフに組み込んでいる。

来館者の興味・関心は個人の主観によるところが大きいため、他の項目と比較することは困難である。特に、図像表現の変化と聞く

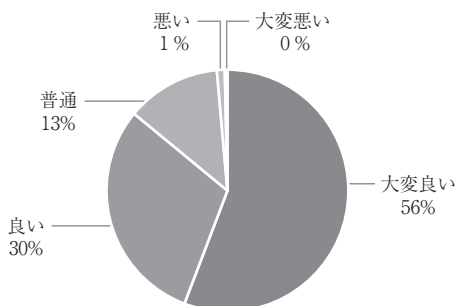


図4 この展示に対するの興味・関心

と、難しい印象を持たれやすいと考える。そのなかで、悪いと回答した人が1%であったことから、良い結果であったと言える。

展示物が一目見て惹き付けられるようなものであったことが、今回の評価に繋がっていると推測する。

(2) 記述式の問いについて

非常に多くの回答を得られたため、一部を抜粋して以下に掲載する。

- ・絵が多く分かりやすかった。
- ・キムユシンの屏風が迫力あって良かった。
- ・展示物が多くなく、窮屈な印象を受けず、見やすかった。
- ・多方面からの解説、着眼点も面白く、説得的。
- ・今までと違う十二支の見方が出来た。
- ・キャプションの書き方、特にキトラ古墳の説明が良かった。
- ・瓦絵馬。
- ・目録や図録があるのが良かった。
- ・最後にまとめとして簡単に変遷の説明が書かれてあったので内容が頭に入りやすいと感じた。
- ・ライティングが心なしか暗かった。
- ・小物などの展示位置が少し低かった。
- ・テーマと内容が合致していて全班のなかでテーマ性は一番あったと感じた。
- ・十二支が獣頭人身像から動物本来の姿に変わっていく過程が面白かった。
- ・壁も台も上手く活用出来ている。
- ・角罫の亥が印象に残った。
- ・ふりがなが少しよみづらい。
- ・獣頭人身像の由来やキトラ古墳の写真が良かった。
- ・最新の研究成果を引用されているところは良い。

- 『獣太平記』のイラストが可愛かった。
- 屏風が真っ先に目をひきました。展示物・パネル共に見応えがあり、とても面白かったです。改善点としては、パネルの文字数が多すぎる点と横書きで読みにくかった点です。
- 米山人兎戯画賛（子）が印象に残った。キャプションの字の大きさも見やすくてよい。
- 残りの拓本も展示してほしい。
- 解説の「米山」^{べいさん}などかなをふってくださっていて、読みやすかったです。
- パネルとキャプションの字が大きく見やすい。展示物の間隔が適切。解説文も平易でよい。クイズなど展示理解への工夫が評価できる。
- 縁起物として十二支が描かれているものが特に興味深かったです。
- 大小暦はどのような目的で交換されたのでしょうか？それをうかがえるような資料の展示があるとさらにわかりやすい。
- 軸の巻き上げが上手にできていた。
- 展示キャプションは背景があるコーナーキャプションが少し見にくかった。クイズは良い導入展示だと思った。
- 瓦絵馬の使い方が知りたかった。
- 掛軸の翻刻がある、親切的な印象。
- 大小暦という展示が最も印象に残った。当時の社会的背景が見えておもしろかった。
- ポスターのデザインが良かったです。昼休みの解説の方が丁寧で分かりやすかったです。短い展示の中でストーリーが成り立っていた。とても見ごたえがありました。

- 十二支は各時代にわたり、歴史的背景も複雑かつ多数あると思われるので、時代もしくは対象をしぼった方が良いかもしれない。このスペースが古代から近・現代まで展示すると焦点がしぼりきれないように思う。
- ガラス越しではない展示も迫力があってよかったです。

4. 考察

展示の内容、見やすさともに、95%近くの人が良いと評価していることから、多くの来館者に納得していただける展示であったと考える。しかし、記述式の回答や図3での評価からも、パネルの視認性は改善点として挙げられる。特に、章パネルの背景の主張が強いこと、全パネルのふりがなが小さいことに関しては、複数のご指摘があった。

展示物のなかでは、大小暦のクイズが予想以上の反響を呼んだ。小さな子どもも楽しく取り組んでいたという報告が班員から上がっており、今回の展示の中で、最も多くの人に楽しんでいただけた展示物であると推測する。来館者には展示を見てもらうだけでなく、展示に参加してもらうことが重要であるということが分かる。

そのほか、露出展示を行った屏風についても、お褒めの言葉を多く頂戴した。実習展の開催前に最も頭を悩ませた露出展示が成功し、喜ばしい限りである。班員にとって良い経験となった。

(23M2009 塩川夏子)

Ⅱ. 装丁維新 —綴じ方の歴史—

1. はじめに

私たちは、普段注目することが少ない本の綴じ方に焦点を当てた展示を行った。和装本から洋装本の過渡期に見られた日本独自の装丁であるボール表紙本を中心とし、日本の書籍の装丁の変遷を紹介するとともにこのような装丁の変化が何をもたらしたのかをご覧頂くことを目的としたものである。

ここでは、その展示に対する来館者の印象についての分析を行う。

2. 問いについて

①から④の項目は5段階評価（5 = 大変良い、4 = 良い、3 = 普通、2 = 悪い、1 = 大変悪い）で、⑤は自由記述方式で回答する形をとった。質問項目は以下の通りである。

- ①展示内容について
- ②展示の見やすさについて
- ③展示の解説・パネルについて
- ④この展示の興味・関心について
- ⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

3. 分析結果

(1) 選択式の質問について

*無回答については、全体の1%にも満たなかったため、除外している。

• 展示の内容について

この図は、展示の内容についての評価を示したものである。図1の通り、約82%の方が「大変良い」、「良い」と回答されており、「悪い」と回答された方もほぼいなかったことを踏まえるとおおむね良い結果であった。

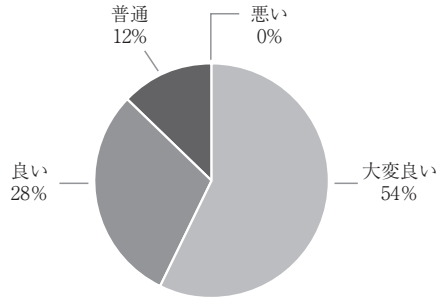


図1 展示の内容について

• 展示の見やすさについて

この図は、展示の見やすさについての評価を示したものである。図2の通り、こちらも約86%の方が「大変良い」、「良い」と回答されており、「悪い」と回答された方もほぼいなかったことを踏まえるとおおむね良い結果となった。

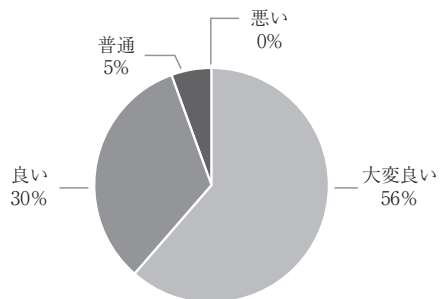


図2 展示の見やすさについて

• 展示の解説・パネルについて

この図は、展示の解説・パネルについての評価を示したものである。図3の通り、約71%の方が、「大変良い」または「良い」と回答されているものの、「大変良い」と回答された方の割合が50%を下回っており、約1%の方

が「悪い」と回答されている。これは資料キャプションに空白が目立ったことや「平綴じ」や「かがり綴じ」といった前提となる用語の解説がなかったことが原因として考えられる。

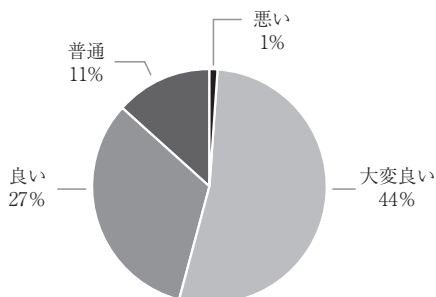


図3 展示の解説・パネルについて

• 展示に対する興味・関心について

この図は展示に対する興味・関心についての評価を示したものである。図4の通り、約73%の方が「大変良い」また「良い」と回答されているものの、図3と同様に「大変良い」と回答された方の割合が50%を下回っており、約1%の方が「悪い」と回答されている。これは全体的に考察が浅く物足りなさを感じさせるような展示となったことが原因として考えられる。

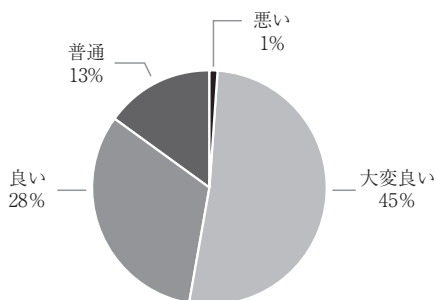


図4 展示に対する興味・関心について

(2) 記述式の質問について

記述の回答は以下の通りである。

(*一部抜粋)

- 本の綴じ方の解説で平綴じや、かがり綴じなどの用語が出てきたがどのような綴じ方が分からなかったので目で見て分かる解説が欲しかった。
- 挨拶の位置がわかりづらい。
- 空白が多い印象をもった。
- ただ資料を並べただけでメッセージ性は伝わってこなかった。
- 紐を通す穴の開け方など、作成工程の紹介が欲しかった。
- 「維新」の言葉の使い方や意味の解説が欲しかった。
- 題材としては面白いと感じたが、もう少し深い解説があれば分かりやすかった。
- 東洋と西洋で別の綴じ方が発展した経緯の説明が欲しかった。
- 「何故そのような綴じ方、装丁になったのか」などのコラムを入れる等すればより展示の物語性とボリュームが増すのではないかと思います。
- キャプションの模様が和装本、ボール表紙本、洋装本で色が変わっているのも可愛かった。
- 実際に触れる本があり、綴じ方がさわって確かめられるというのがすごく良いと思いました。
- ポスターから展示内容が一目で分かるので良い。
- 専攻が古典なので和綴じの本に触れることもありますが、綴じ方やその歴史に注目したことがなかったのでいい機会になった。
- すっきり見やすくまとまっていて良い。
- 四つ目綴じの模様(綴じ方)がすごく面白い。
- 『吾輩は猫である』の鏡を用いた展示が良か

った。

- 展示を拝見して思い浮かんだのが、契約書などに用いられる和とじの方法です。古い文書が、散逸せずに保たれてきたのは、この綴じのあり方に大きな要因があるように思います。今後の歴史的資料の保存、修復のうえでもとても興味深いテーマだったと思います。

4. 考察

選択式の質問に関しては、普段注目することのない本の綴じ方に焦点を当てたことや、ハンズオン展示として、実際の和装本や私たちが作成した和装本・洋装本の模型に感想を書いてもらうコーナーを設けたことが功を奏したためか、全ての項目で約70%以上の方が、「大変良い」または「良い」と回答してください

り満足して帰っていただけたのではないかと考えている。一方、解説・パネルについて、展示に関しての興味・関心については「悪い」と回答された方が少なからずいたので、改善の余地があったのではないかと思う。

自由記述方式の回答からは、私たちだけでは気づかなかった点を指摘していただいている回答も数多く得られた。一方で普段何気なく手に取る本や書物の装丁にも注目してみたいと思うといった感想も寄せられており、本の装丁に興味を持ってもらうきっかけを作ることができたと考えている。

最後に、この展示を通して、一人でも多くの方が本の装丁に興味・関心を持っていただければ幸いである。

(文21-787 横山陽香)

Ⅲ. 江戸髪結文化～髪と歴史をほどく～

1. はじめに

私たちは江戸時代の女性の髪結文化についての展示を行った。本展示では古文書・簪・櫛・笄・鏡を展示品とし、描かれている女性の様子から江戸時代と現代の女性を紹介することで「江戸の髪結文化」を考えることを目的としたものである。

ここでは、本展示に対する来館者の様子についての分析を行う。

2. アンケート用紙について

質問項目は、「①展示内容について」「②展示の見やすさについて」「③展示の解説・パネルについて」「④この展示に対するの興味・関心について」を五段階（5 = 大変良い、4 = 良い、3 = 普通、2 = 悪い、1 = 大変悪い）で評価する選択式の質問を設けた。また、「⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください」と表記した自由記述回答欄を設け、合計5項目の質問を用意した。

3. 結果

(1) 選択式の質問について

①展示内容について

大変良い	112人
良い	70人
普通	23人
悪い	2人
大変悪い	0人
回答なし	43人
合計	250人

②展示の見やすさについて

大変良い	121人
良い	58人
普通	29人
悪い	3人
大変悪い	1人
回答なし	38人
合計	250人

③展示の解説・パネルについて

大変良い	112人
良い	66人
普通	28人
悪い	5人
大変悪い	0人
回答なし	39人
合計	250人

④この展示に対するの興味・関心について

大変良い	109人
良い	61人
普通	33人
悪い	6人
大変悪い	2人
回答なし	39人
合計	250人

(2) 自由記述回答の質問について

回答をグループ分けし、類似回答については省略する。

解説について（合計6件）

- ・実習展の方から直接ご説明を受け大変面白かった。

- 展示はとてもみやすかったが、質問されたとき、それがどういうものか、があまり応用のとこまでいけてなかったかな。

パネルについて (合計17件)

[ルビについて] (2件)

- 資料の名称はどのように読めばよいか分からない部分があった。(13日)

[写真について] (3件)

- カラー写真のパネルが分かり易い。

[文字について] (7件)

- パネルの色合いや文字の大きさがとても見やすかった。
- パネルの字が詰まっているのが少し見づらかった。

[その他] (3件)

- 解説パネルの角度をケースの手前と奥で変えたほうが、同じところからみたとき読みやすく感じました。

[解説の内容] (2件)

- 第1章は古文書ではなく和本・絵巻だと思う。
- 実際にどのように結うのかの解説や江戸時代の人々が特に工夫していたのか、というような展示品の更なる解説(第1章の古文書の現代語訳など)があると面白くなる感じた。

展示方法について (合計18件)

[展示品の展示方法] (7件)

- 小さな装飾を見るための虫眼鏡が配置されていて見やすかった。
- ケースが少し明るい?

[展示全体を通した展示方法] (11件)

- 展示ケースごとに章立てして分けていたので、分かりやすかったです。

- 古文書と歴史、髪結道具とジャンルごとに分けた展示がなされており見やすかった。
- せっかくなら自分達で結い体験をしてはどうでしょう。
- 髪型そのものからかんざし等の展示へと変わっていく構成が良かった。

展示品について (合計22件)

[古文書] (2件)

- 古文書が見られてよかった。道具の実物もよかった。

[櫛] (3件)

- 金色漆櫛が綺麗で印象に残った。

[簪] (9件)

- 二股耳搔簪(耳かきと一体となっているのが面白かった。)
- 小鳥付黄色かんざしが繊細なデザインで可愛かった。

[展示品の数] (2件)

- 整髪道具をもっと見たかったかも。

[その他] (6件)

- 道具の数も美しく目を引くものだった。
- 女性の関心が高いテーマで、見ていて美しいものが多く、みごたえがあった。
- あつかいが難しい資料をよく展示していると思いました。

この展示に対する興味・関心について (合計17件)

[展示タイトルについて] (1件)

- 江戸髪結い文化というタイトルは内容と合っているのか疑問。

[展示方法] (2件)

- 簪などどう使うのかがあまりイメージ出来なかった。
- 絵画資料と実物の道具をリンクさせて見ることができて面白かった。

[職業：髪結いについて] (2件)

- 男性の髪結いや職業としての髪結いは？
- 近世日本における女性の職業という観点でも髪結師は注目すべき点がある。

[感想] (12件)

- 簪を結婚しているかしていないかでつける種類が違うことを初めて知った。
- 今も昔もおしゃれを楽しむ女性は楽しいですね。
- 髪結と結髪のちがいが印象に残った。
- 髪結が時代に沿って変化しているところが印象的でした。
- 男性として髪について注目することがなかったので、新たな発見をすることができました。

った点、[職業：髪結いについて] から「髪結師」の着目の不足が挙げられる。

したがって、展示内容と展示タイトルにブレが生じていた事が分かる。企画段階から展示のブレと江戸時代の髪結文化を語る上で重要な「髪結師」について悩む点が多く、展示に表われたと考える。

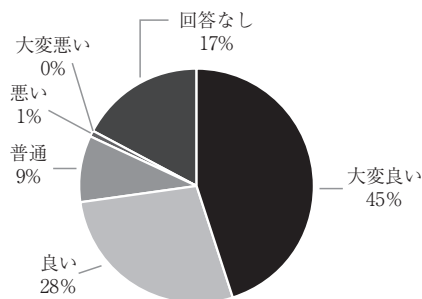


図1 展示内容について

4. 考察

実習展期間中、展示内容に以下の変更点があった。

- 1 上方風俗図絵巻の重しを置く場所を、絵に被らないように変えた
→13日閉館後に修正、15日に修正済み
- 2 パネルとキャプションにルビを打った
- 3 笄（簡体字）を笄（本字）に変更
→14日閉館後に修正、15日に修正済み
- 4 美人画に画鋏で浮きを固定した
- 5 二代目長谷川貞信自筆美人画 浪花名所美人揃をテープで浮きを固定した
→15日閉館後に修正、16日修正済み

アンケートの質問の評価と自由記述回答から、本展示を考察していく。

まず、①展示内容については「大変良い」「良い」が72.8%、「大変悪い」「悪い」が0.8%であった。自由記述回答の「展示タイトルについて」からタイトルと内容の不一致、「展示方法」から展示品の使用方法が伝わらな

次に、②展示の見やすさについては「大変良い」「良い」が71.6%、「大変悪い」「悪い」が1.6%であった。自由記述回答の「展示品の展示方法」から資料の模様を見るための虫眼鏡の設置と異なる材質に対する展示手法の工夫、ケース内の光の強さについて挙げられた。

また、「展示全体を通した展示方法」からは「章」を用いた展示構成や展示品のジャンルを分けた展示方法が挙げられる。

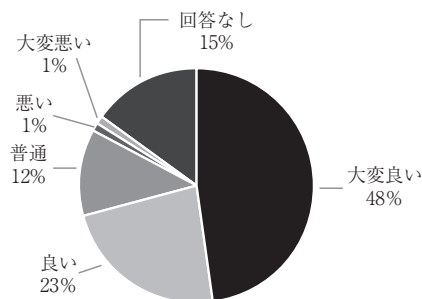


図2 展示の見やすさについて

ケース内の光の強さに関しては、左右ケースの明るさに違いがあったため気になった来館者がいたと考えられる。異なる材質の資料であるため、光の強さを同一にする調整に限度がある。光量の違いについて解説者が答えられるようにしていたが、パネルなどを用いた説明も検討しても良いと感じた。展示構成に関しては、該当ケース内の展示意図を明確に示した展示方法が好まれる傾向にあると考えた。

また、③展示の解説・パネルについては「大変良い」「良い」が71.2%、「大変悪い」「悪い」が2%であった。展示の解説については、自由記述回答の「解説について」から話が聞けて良かったという回答が多い。しかし、複雑な内容の解説について不十分な点が多く、より展示に対する知識が必要であると考え。パネルについては、自由記述回答の「ルビについて」から、史料の名称に関する来館者への配慮、写真を用いた説明や「文字について」では文字の大きさ、「その他」ではパネルの角度、「解説の内容」では単語の誤った使用や解説不足が挙げられた。14日の閉館後にパネルにルビを打つ修正を行い15日の開館には修正済みであったため「ルビについて」は2件であったが、修正を行わなかった場合は、この指摘は増加したと考える。

解説の際に露見する知識不足は展示そのもの

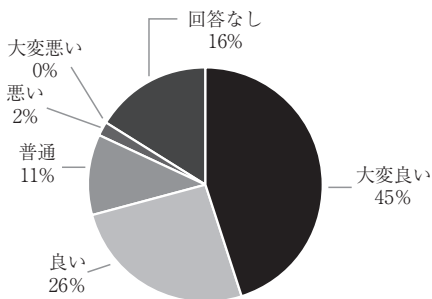


図3 展示の解説・パネルについて

の信用を欠く行為であるため、展示品の詳細な情報収集と来館者は初めて見る資料であるため「ルビ」は必要であると考え。来館者に「伝わる」ことが重要であるため、ルビ、文字の大きさ、パネルの角度に対してより細心の注意を払う必要がある。

最後に、④この展示に対しての興味・関心については「大変良い」「良い」が68.0%、「大変悪い」「悪い」が3.2%であった。自由記述回答の「感想」から和書に関する感想は無いことと、画像や実物資料に対する感想が多いことから、一目で分かる資料は来館者の興味を引く展示であると考え。

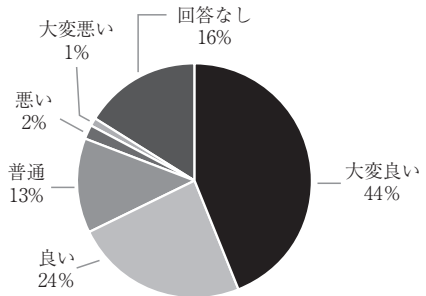


図4 この展示に対しての興味・関心について

本展示のアンケート考察まとめとして、「展示内容と展示タイトルのブレ」「見てもらう展示としての配慮」「展示に対する深い情報収集」が不足しており、「展示意図を明確にした展示構成」「展示品の多さ」を良い点として挙げる。「理解してもらう展示」としての知識不足、江戸時代の髪結文化に対して「江戸」と来館者が比較しやすい「現代」という2視点から展示を見ることができるとパネルに明記したこと、展示品について複数の方に相談したことが要因であると考え。

全体を通して来館者から良い評価を得ることができた。改善点も多い展示ではあったが、良い点も多い展示であった。

(文21-752 山尾優希)

IV. お～盛んやね、大阪！大大阪展

1. はじめに

私たちは、今から約100年前の1925（大正14）年に大阪市が面積・人口ともに当時の東京市を抜き、日本一の大都市「大大阪」へと成長した時代の大阪市を、そこに生きた人々の暮らしの姿とともに紹介する展示を行った。

ここでは、来館者に対して行ったアンケート調査の結果から、私たちの展示に対する来館者の評価を分析する。

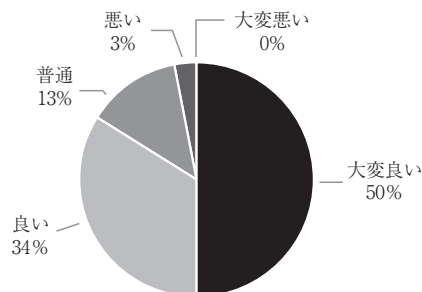


図1 展示内容について

2. 問いについて

アンケートは5項目で構成されている。①から④の4項目は選択式の5段階（5 = 大変良い、4 = 良い、3 = 普通、2 = 悪い、1 = 大変悪い）で評価をする形式であり、⑤は自由記述とした。質問項目は以下の通りである。

- ①展示内容について
- ②展示の見やすさについて
- ③展示の解説・パネルについて
- ④この展示に対するの興味・関心について
- ⑤展示の中で最も印象に残った資料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

②展示の見やすさについて

大変良い、良いと答えた人が全体の83%を占めていた。大変悪いと答えた人が1人居たことから、0%であるがグラフに組み込んでいる。

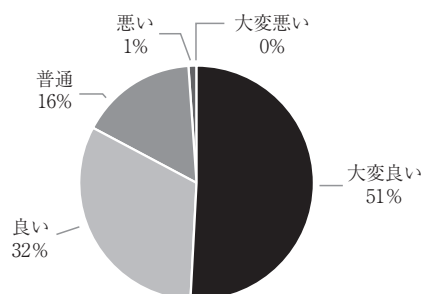


図2 展示の見やすさについて

3. 分析結果

(1) 選択式の問いについて

①展示の内容について

大変良い、良いと答えた人が全体の84%を占めていた。大変悪いと答えた人が1人居たことから、0%であるがグラフに組み込んでいる。

③展示の解説・パネルについて

大変良い、良いと答えた人が全体の76%を占めていた。大変悪い、悪いと答えた人が全体の2%を占めていた。

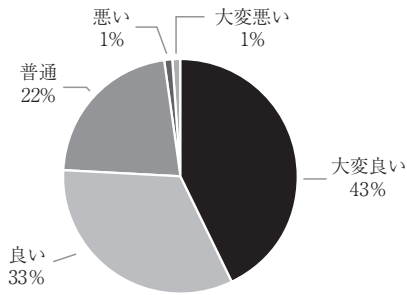


図3 展示の解説・パネルについて

④この展示に対しての興味・関心について大変良い、良いと答えた人が全体の82%を占めていた。大変悪いと答えた人は居なかったが、これまでの①②③の回答には居たことから、0人であるがグラフに組み込んでいる。

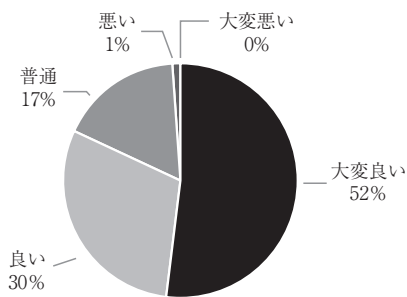


図4 この展示に対しての興味・関心について

(2) 記述式の質問について

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

- ・「大大阪」という言葉は経済活動の活発さを表すものだから、そこと展示物の文化的な要素がどう結びついているのか説明があればなお良かった。
- ・はなやかな当時の様子を文字でも表現して欲しかった（たこ焼き、和服のところが「お

しい」印象)。

- ・歴代市民に実績のある将来への展望があって行政に取り組んだ人物がいたことを知れた。
- ・関一の言葉に頷いた。
- ・地域が広すぎるため、広義な意味での見方になった。
- ・大阪市がかつて日本一だったことを初めて知った。
- ・限定されたスペースを有効に展示していて良い。
- ・現在も残っている建造物の写真と解説。
- ・写真が大きいとより見やすい。
- ・現代にも残る当時の建物が地図上で表されていて見やすかった。ただ、古い地図にも場所が明記されていれば比較しやすいと思った。
- ・大阪の発展の礎を築いた人物の強い意志を伝える資料が良かった。
- ・個人蔵の展示物などから、在りし日の様子が鮮やかに伝えられていた。
- ・大阪市の歴史、魅力がよく調べられていて分かりやすかった。
- ・オムライスが美味しそうだった。
- ・身近なものがテーマになっており、知っている場所やモノが出て来て楽しかった。
- ・電子の図録があるのは良かったが、位置が分かりにくい。
- ・実際のお店から食品サンプル借りているのがすごい。
- ・トピックは面白いが時代の流れが感じにくい。建物に着目するとか、トピックをしほったほうがよかったかも。
- ・地元のことだが、知らないことも多く面白かった。
- ・大大阪が、現代に残したものは、歴史的建造物だけだったのか。今回の調査で、一般的な大阪のイメージにつながるもの、それ

をくつがえすものについて展示解説があればより興味深い展示になると思う。

- パネル文字の背景はもう少し薄くして、字のポイントを上げた方がよいのでは。個人的には興味深い内容だった。大阪の地位低下の原因の説明はもう少し埋める余地があると思う。
- 文様の背景のあるキャプションパネルは見方によっては見にくい場合がある。
- パネルのキャプションに改善の余地がある。レプリカの使用は工夫されて良い。
- 攻めたテーマで驚いた。
- 食品サンプル。質問にも丁寧に答えていた。
- 現代までのこっているのは胸がワクワクした。
- 大阪の代名詞であるたこ焼きの起源を知れておもしろい。
- 大阪の昔の電車が走っていて、その模型があることがすごい。
- 関一が伊豆出身という点に興味をもった。
- 補足資料が多く、見やすかった。
- QRコードで読みとれてよかった。写真が多くてみやすかった。
- 大阪の発展の歴史が知れておもしろかった。特に服の展示は実物があってわかりやすい。
- 紋付羽織が印象的だった。
- 大大阪といえば着物より「モボ」・「モガ」では？
- 食・衣・住（建築）を通して大大阪を表現することの展示の意図かと思うが、展示資料のつながりがよくわからない。
- 本の中の見て欲しい箇所には矢印を置くなどの工夫が必要。
- パネルが見にくい。図録のPDFはうれしい。展示とキャプションのつながりがない。結局何を指しているのか分からない。展示の流れが無さすぎる。
- 大阪の都市化によって何が変わったのか、

展示物からいまひとつ見えてこないのが残念。大阪の衰退の要因は台風や恐慌だけなのか。問題をもう少し掘り下げて欲しかった。

- パネルにマージンがあるのに文字が小さい。展示にふさわしくない言葉がみられる。大大阪の「契機」とは？資料番号がない。羽織の展示意図がわからない。補助資料が必要ならば実際の展示で伝えれば良い。
- 今も残るたこ焼き屋さんやレストランが展示してあり興味深かった。昔の流行などが身近に感じられる展示だった。大阪の方は特に昔の街並みなどを思い出したり、又これから散歩などで当時からある建物を見て回ったりできて良かった。
- 今では見ないマッチラベルは新鮮だった。
- 安直ですが、たこ焼き、オムライス“やっぱ大阪”感があった。“がんばれ大阪”感が湧いた。
- 「東洋のマンチェスター」と称された大阪、東京よりも人口が少ない時期もあったが、古き良き大阪の姿を写真東京から見て、あらためて大阪の良さを感じた。
- 「大大阪展」はあまり興味がない。
- 大大阪時代の華やかな雰囲気を感じられた。班員さんの努力を感じられる展示だった。
- パネルが背景のせいで少し見づらかった。
- 万博班の展示とのつながりが見ることができて面白かった。
- 解説が丁寧で分かり易かった。
- 当時の大阪を知る度に今の現在の便利な生活に感謝の気持ちが湧いた。
- 第2章の最後に着物の展示があったが、展示を見て回る順番だとそれらの解説が後にあるため展示の意図が少し分かりにくかった。解説の文字をもう少し大きくして欲しい。
- オムライスを「時代のもの」と解釈したの

が良かった。

- この切り口は大きく展開できると思った。
- 地図が雑。
- 写真やサンプルなどが中心で大大阪を実感できる資料はなかった印象。特に衣類から大大阪を感じられなかった。

4. 考察

大阪に関する展示であったため、多くの来館者の方が展示のテーマに関心を持ってくださったように感じる。特に食品サンプルに興味を持つ方が多かったが、展示テーマとの関わりや、展示資料のつながりがよくわからないとの声もあった。

本の中の見て欲しい箇所に矢印を置くなど

の工夫が必要だという指摘を受け、線を引いた紙を置き、焦点が当たるようにした。そのほかにも、展示資料の配置を見やすいように変えるなど、実習展期間中に改善した点もあった。一方で、パネルの文字の大きさや、背景の模様で文字が見にくいという意見が多数あったため、改善の余地があったのではないかと思う。

全体を通して、身近なものがテーマになっており楽しかったという意見も多かったことから、当時の華やかな雰囲気の片鱗と現代との繋がりを感じていただけたのなら、喜ばしい限りである。

(文20-620 マッカートニーマリア愛美)

V. 新旧万博で見る大阪史

1. はじめに

私たちは、1970年に吹田市で開催された「日本万国博覧会」から、2025年に大阪市で開催される「日本国際博覧会」を軸として、万博に関連して発展していった大阪の歴史を紹介する展示を行った。ここでは、その展示に対する来館者の印象についての分析を行う。

2. 問いについて

選択肢は5項目設け、①から④の項目は5段階評価（5 = 大変良い、4 = 良い、3 = 普通、2 = 悪い、1 = 大変悪い）で、⑤の項目については自由記述方式で回答する形をとった。

質問項目は以下の通りである。

- ① 展示内容について
- ② 展示の見やすさについて
- ③ 展示の解説・パネルについて
- ④ この展示に対するの興味・関心について
- ⑤ 展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

3. 分析結果

※無回答については、全体の1%に満たなかったため、除外している

(1) 選択式の質問について

① 展示の内容について

大変良い、良いが約88%を占めていた。大阪万博に関する展示であったため、来館者の方の関心を引きやすかったことが要因と考えられる。

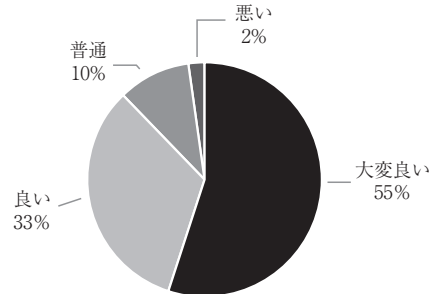


図1 展示内容について

② 展示の見やすさについて

大変良い、良いが全体の約86%を占めていた。日本万国博覧会の会場マップを壁パネルに展示することや史料を斜めにおいて展示することなどの見やすさを考えて展示をしたのが評価されたのだと思う。また、覗きの展示ケースを使い、展示を行った点も好評だった理由の一つだと感じた。

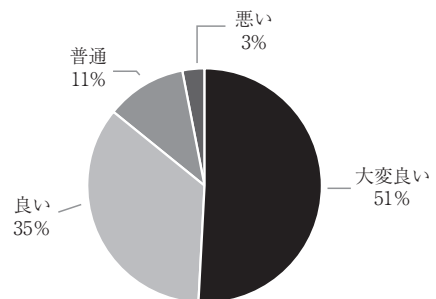


図2 展示の見やすさについて

③ 展示の解説・パネルについて

大変良い、良いが全体の約80%を占めていた。タブレットを使用した補足説明や写真を使ったパネル展示、口頭での解説などが評価されたのだと考える。

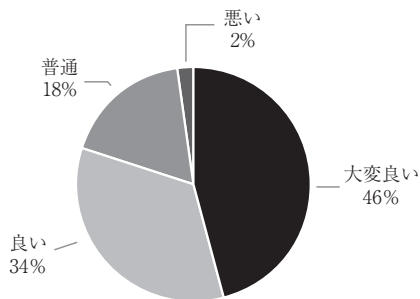


図3 展示の解説・パネルについて

④この展示に対しての興味・関心について
 大変良い、良いが全体の約86%を占めていた。現在、2025年に開催予定である日本国際博覧会の話題が取り上げられる機会が多いことから、展示に対しての興味・関心を持たれる来館者の方が多かったと考える。

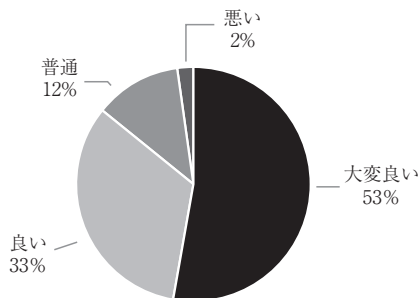


図4 この展示に対しての興味・関心について

(2) 記述式の質問について

⑤展示の中で最も印象に残った史料や改善点、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

- 時間をかけ、苦勞して完成させた展示というのがよく分かり、見ている側も万博の当事者だと思わせるように見事な構成だと思った。
- 実物展示のチケットやコインを見ることが

できて良かった。

- 関大生を対象としたアンケートは興味深かったが、調査対象が300人だと資料としては不十分なのでは？
- 当時の様子がイメージできて面白かった。関大万博部に期待しています。
- 1970年の万博が社会に与えた影響を数的なデータで解説されるとさらに理解が深められるのではと感じた。
- 2025年の万博の展示が少なくバランスが悪い。
- 万博についてあまり知らなかったが、当時の雰囲気を知ることができた。
- 切手の値段の価値を示すともっと分かり易くなると思う。
- 錯覚の資料、ここでしか見られないとか。光が当てられないのは理解できるが、少し見にくい。
- 全展示の中で、最も今後の関心につながると思いました。万博に関西大学が参加するのも初耳でしたし、万博に対する諸々の意見を展示していたのも大変良かったです。「負の側面」のパネルは、もっと大きくても良いと思いますし、注目されやすいと思います。
- 頑張れ関西万博！ネガティブな一人でしたが、その気持ちを持たせてくれました。
- アンケートの結果が若干見づらかった。しかし、まとめた結果と結論があるところは良かったと思います。
- 万博に関するアンケートから、その問題点や人々の興味などがわかりやすくまとめられており、勉強になった。
- マップなど大きく展示されていたので見やすかった。
- 多くの個人蔵品が展示されていたのがとても印象的でした。関大のある吹田市は1970年万博の会場なので、2025年万博の会場跡

地の利用につながるような資料も展示できればさらによいと思います。

- 個人的に面白く見ることができた。同時代の吹田市と万博との関係がわかるように説明するとよりよかった。
- きちんと負の側面を展示していた点がよかった。

4. 考察

現在、話題になっている万博に関する展示ということで、展示のテーマに関心を持って

きてくださる来館者の方が多い印象だった。1970年の日本万国博覧会に関する展示物は多くの展示物を用意したので、評価して下さる方が多かった。しかし、2025年の展示物が少なく、1970年と2025年の対比が上手く出来ていないという意見やパネルが見にくいという意見が寄せられた。そのため、展示の構成やパネルの文字の大きさを改善すれば、より良い展示になったと考える。

(文21-459 土守亮太郎)

関西大学博物館実習展（講評）

日程 2023年11月12日(日)～11月17日(金)10時～16時
場所 関西大学博物館特別展示室（簡文館内）

十二支の変遷

- ・ポスター：十二支は龍だけではないと思うのですが…。
 - ・図録にある図1の暦の解説が展示の方がない。
 - ・十干十二支や陰陽五行説などの解説がない。
現代は十二支の影響としてエピローグぐらいでよいのでは。
- ・ポスタータイトル文字が背景に埋没してしまっている、配色は要検討。
 - ・図録は表紙に厚手の紙を用いるなど工夫がみられる。
 - ・大小暦類聚の鶏絵馬のクイズは興味深かった。
 - ・院生も含まれているチームのため、多くの文献を参照し、詳しい説明が加えられているが、図録10頁の「米山人兎戯画賛」の説明で「ヤジロベ」を「カカシ」とするなどのあやまりもあった。展示の基本は資料、作品の丁寧な観察にある、この点を肝に銘じてほしい。
- ・古代とそれ以降の扱いの違いは分かるが、近世と近代の変化が分かりづらい。
 - ・図録：文字と図のバランスなどはいいと思える。
- ・展示は工夫されているところと、ただ並べているところの差が激しい。
 - ・クイズなどの取り組みや説明は丁寧であった。
- ・文字と背景が溶け込む。
 - ・導入に高松塚は使えなかったのか。
- ・十二支は信仰、暦、いろんな意味があると思うので、もっと内容をしぼったほうがわかりやすかったかもしれない。
 - ・展示で伝えきれていない部分は図録で補われている。
 - ・ポスター、図録の図が拡大されすぎててわかりにくい。
- ・変遷→時代による変化といい切れるのか。
 - ・制作時期「二十一世紀」とあるのに解説は「八世紀後半」としている。本紙の作られた時期が制作時期。→わかりやすく解説で示す。
 - ・図録第二章以下が特に図版が挿絵的。
 - ・原物が出品されていない東博の「大小」が図録では出品されているよう。「参考」とすべき。
 - ・◎展示方法、キャプションの文字などは良い。作品と解説配置みやすい。(ただし、下地に絵が入っているキャプションはみにくい。)
- ・十二支の変遷というよりも、十二支の描かれ方の展示でした。
 - ・十二支とは何か、を冒頭に説明してほしいです。
 - ・解説文は「です」「ます」が基本です。(「あいさつ」だけが「です」「ます」)

- ラベル、パネルのフォーマットを統一しましょう。
- ポスターは何が何だかよくわかりません。
- 屏風は、露出展示はやむを得ない、としても、もう少し高い位置に置きましょう。
- 図録の参考文献は吟味しましょう。
- • 古文書の翻刻が正確でした。
- • 展示物の数は適切と思われる。全体にフォーマットも整い、見やすい展示と思われる。
- 展示意図を感じるのがポスターでは難しい。
- • 十二支の意味、方位、季節、朝～夜、時間、すべてを割り付ける中国の思想が陰陽、十二支で表されていることを展示すべき、図録のデザインレイアウトは良い。
- • 十二支の歴史の変遷、意義の変化などを、通時的にうまくまとめられていると感じました。図録、ページ数の制約からか、写真が小さくなっていたのがもったいないなと思いました。図録、丁寧にまとめられていると思いました。

装丁維新一綴じ方の歴史—

- • タイトルがよくわからない、何がターニング・ポイントなのかボール表紙本が維新时期にあたるのかも説明がない。
- 和本→洋装本→ボール表紙本の順に展示が並んでいるが、洋装本とボール表紙の並び方が逆では。
- 展示されている洋装本の綴じ方が図録に載っていない。
- • ポスターはとてもスマートなデザインであり、文字の使い方などセンスを感じる。
- 展示キャプション、図録と統一性をもたせた作りになっており、伝えたいことの意図が明確であった。
- • 図録の文字は読みやすいが、もう一回り小さくても良かったかも。綴じ方が詳しく分かる図か写真が必要。
- 洋装本の説明がもう少しあれば、と思う。
- 「装丁」と「綴じ方」はイコールでないのでは？「維新」と言うにはかなりの変化があったと思うので、そこに焦点があると面白いのでは？
- • 展示作品が少なすぎる。綴じ方の展示ではなく、本の表紙展の感がある。
- ハンズオンコーナーは良いと思うが、ボール表紙だけでなく様々な版本を展示すれば尚良し。
- キャプション、図録：文字大きすぎる。
- • 色が複雑。
- 展示パネルの図は図録に入れなかったのか。
- • あいさつ文が小さい。
- ルビがほとんどない。キャプションが小さい。
- • 現在もっと多種のとじ方があるので、紹介してもよかったかもしれない。
- 図録が和綴になっているのがよかった。展示規模が小さいからこそその工夫。
- ポスターの●の形は何ですか？
- • 作品と解説の関係がわかりにくい。

- 技術を示したい展示なのか？何を発信したいのかをきちんと自分たちの中で共有する必要がある。
 - • 「装丁」ではなくて「本の綴じ方」の種類を簡単に示しただけですね。
 - ポスターの「手の影」は何でしょうか。不穏・不安な感じです。
 - 「装丁維新」とはどういう意味でしょうか。
 - 全体に追究が不足していて、内容が浅いです。(たとえば、ラベルが装丁にフォーカスしていない。パターソンの経歴や肖像などがほしい。)
 - 色違いの展示台を重ねていますが、その理由は何でしょうか。
 - • 列品解説の無い資料があります。
 - • コーナーごとの境界と、その意義とともに明確にした方がよい。
 - わかりやすい展示への工夫は良い。
 - • 装丁・綴じ方をひもときそこから何を示そうとしているのかが判らない。
 - 和装本から洋装本への移り変わり、あるいはそれとともに、洋式印刷・製本技術の導入とそれを必要とする当時の明治政府や社会状況があったのでないではないか。
 - 陰影本・復刻本等の本を扱うのであれば、その奥付から作者・執筆者・版元等、また何の陰影本なのかを情報として示す必要がある。
 - 文字の大きさ項目解説は良い。
 - 図録・展示ともにキャプション・題箋の情報不足。
 - 展示のレイアウト・照明は良い。
 - • 綴じ方の歴史との副題よりも「明治ボール表紙本の出現」の方がよい内容と思う。
 - 明治の出版数は世界的にも画期的だったはず。
 - • 展示会タイトルからすれば、装丁のなかでも、綴じ方を通時的に取り上げようとした内容になるのですが、第1章は和装本の綴じ方（複製ではなく、当時の和装本を展示してほしかったな、綴じ紐が当時のものかどうかどうか検討が必要ですが）、第2章は洋装の書籍全体の話、第3章は表紙の話、第4章はデザインにと、見方が、すこし揺れ動いているように感じました。
- 本の外観を通時的に見るということでは、このような展示もあるのかと思いますが、いっそのこと、明治初期に独特のボール本に絞った展示でも、よかったのではないかと感じました。

江戸髪結文化～髪と歴史をほどく～

- • 第1章の「古文書」だが、浮世絵も古文書か？
- パネルにルビが当初はなかった。この図録にもルビが不足していてわかりにくい。
- かんざしも少し斜めの台に乗せるほうが見えやすいのでは。
- • ポスターはデザイン的には工夫されているがサブタイトルがデザインの中に埋没してしまっている点が残念である。
- 展示は、1点1点の資料をいかに見せるかを吟味して丁寧に作られていた点は大変評価できる。

- また浮世絵をはじめとする摺り物だけでなく「上方風俗図絵巻」のような当時の手描き資料も発掘してきた点もよかった。
- 全体として展示に思いをこめて作っているため、解説も大変積極的で熱意が感じられた。
- • 図録の内容は充実しているが、用紙を選んだほうが良かったと思える。(裏うつりと写真の発色が△)
- 写真はあったが、立体的にどう結われているのか、もう少し分かれば嬉しい。(絵画は平面的、なので)
- • キャプション、タイトルに関して今一步踏み込んだ姿勢がほしい。
- 実際にくし、かんざしをつけてみる。
- 髪結→床山さん。
- • 色が複雑。
- 展示物を台に置き、段差をつける工夫は良い。
- • 髪型と変遷、道具がわかって面白かった。
- 自分達でも試しに結ってみればもっと面白いと思った。
- 図録の写真が画素が足りないのが残念。
- • ③は「都風俗化粧伝」の名称が有名。初版は文化10年刊④は遊女ではない⑥明治初期の女性性は江戸期と同じ髪型多し。
- 図録：図が従、文が主のよう。
- 壁面パネル、人物の顔も映っているが許可を取ってないらしい。キケン。
- キャプションに誤りがあるので質問すると「先生にきいた」とのこと。自分たちで確認すべき。
- • 展示絵画に描かれている髪型をちゃんと解説してほしいです。
(壁面の解説パネルと展示資料が遊離しています=資料と解説がまるで一体化していません)
- 解説文の行間が狭すぎます。(縦組み行間は1/3アキ以上) また、行当たりの文字数が多すぎます。
- 展示台をもっと少なくして展示空間を整理しましょう。
- ポスターは、モチーフを整理しましょう。
- 「歴史をほどく」は、述語として苦しいと思います。
- • 列品解説の無い資料があります。
- • 展示内容は整理されているのでわかりやすい。
- 図録はやや粗い。奥付の位置などルールに則っていない部分あり。
- • 本文のレイアウト、文字の大きさは良い。
- 目次の下部にある奥付は最後に記すのが一般的。
- 凡例がほしかった。
- 「展示品紹介 古文書」は、作品解説などにした方が良い。
- 図録のキャプション、展示資料の題箋に版本の出版・版元の記述がない。
- 絵師名の後に「作」は不要。
- 展示品借用先一覧は、展示品出品一覧あるいは出品目録とした方がよい。

- 展示題箋の情報不足。
- 展示のレイアウト・照明は良い。
- 項目解説パネルにアクセントとして桜の花びらを背景に入れたのは良いアイデア。
- 展示の中にある写真パネルも目録の中にほしかった。
- • 髪結と髪飾り、一緒のようで別では？
- 図録のレイアウト、参考例に合わせるなりして工夫して下さい。
読みにくい、きれいでない、ゴチックつかう、フォントかえる、ワク使う、アミかける。
- • 和本、絵画資料、短冊、様々な道具類など、すこし多いかなと思いますが、多くの資料を集められ資料調査を尽力されたかと思います。
- 第1章の古文書（この表記が相応しいか大いに検討の余地あり）の背後の髪型紹介の写真と絵画資料の関連、第1章の絵画資料で描かれている道具と、第2章の実際の道具類の関連を、もうすこし示すことができれば面白かったのではと感じました。

お～盛んやね、大阪！大大阪展

- • 大大阪が大阪市域の拡大を示すのなら地図がないとわからない。
- 食べ物等文化面にも触れてみようとして試みているがちょっと不十分だと思う。
- パネルの字が細いのと、地の模様が目に付いて見にくい。
- • ポスターはもう少しデザインに工夫がほしい。モノクロ写真の背景に黒文字は読みにくい。
- 展示資料に関する解説の不足がみられた。何故それを展示するのか、それがタイトルとの関係でどのような位置付けにあるのか明確でないものがいくつかあった。
- ただし、自分たちで食品サンプルなどを交渉して出品できた点は評価される。
- 図録はデザイン的にはもう少し工夫してほしいが、QRコードと連動させて、スマホ等でも見られるようにした点はよかった。
- • 3章だけパネルの雰囲気ごとなるのはなぜ？（地模様など）
3章の建築写真の撮り方が気になる（あおって撮らない）
- タイトルで示したかったことが少々分かりづらい。（何が「盛ん」だったのか？）
- 着物類が突然でてくる印象がある。人々の衣・食・住とか、整理して説明が必要では？
- 図録に節を設け、整理し、展示品と連動させるといいのでは？
- • 展示コンセプトがしっかりしていない。
- オムライス・タコ焼きが浮いている。
- 大大阪展：いくらでもある。建築、地図、絵はがき 何か一つしぼる。
- • トピック展示のようになっていて、個々は面白いが流れがわかりにくい。
- 小袖について質問したら、解説の方はあまり内容がわかっていない？と感じた。
- 建物だけ、とかしぼったほうがいいかもしれない。
- • 図録の割付（文字の大きさ・行間など、目次～凡例）他の図録など参考にすべき、図版が挿絵のよう。
- 大大阪に堺市は入るのか。
- 出品されている作品に解説が付いていないものもある。つけるべき。

- ・「お～盛んやね、大阪！」は必要ですか。
- ・「大大阪」の何を展示したいのかがまったくわかりませんし、大大阪が何なのかもわかりません。その位置、範囲はどこ？年代はいつ？
- ・ラベルやパネルのフォーマットやカットイングが不揃いです、きちんとそろえましょう。またそれらの配列、配置も雑です。
- ・展示台の無用な積み重ねが目立ちます。
- ・ポスターを見ても何を展示しているのかを想像できません。
- ・横綴じの図録は本棚での整理がしにくいので、少し考えるべき。
- ・テーマと展示が結びつきにくい。
- ・図録の文字は少し大きいが全体として読みやすい構成となっている。目次のところで、各章の下に項目名を入れた方がよい。文章も判りやすく良い。
- ・大大阪時代の大阪市の社会施策として市営住宅建設、市民病院設置等がおこなわれたことも紹介してほしい。
- ・図録掲載した資料と出品目録を照合するためにそれぞれに共通する番号を振った方がよい。
- ・図録の中に一般的に奥付と言われるものがない。表紙中央下段にあるものは通常ポスターに記される情報。
- ・展示の中で、帯・小袖が図録の図版と同じように展示されていないのが残念。
- ・展示のレイアウト・照明は良い。
- ・パネルの背景で文字が読みにくい。
- ・QRコードの使用をもっと前に出すべき。
- ・「大」の付く展示はむずかしい。題と内容のギャップができるので、「大正期大阪」など限定があってもよかった。
- ・図録タテだが、フォントや飾りでタテを生かしてほしい。
- ・大大阪という実体のないものをテーマに選んだことは、すごい挑戦かなと思いますが、展示資料で、それがうまく表現できていなかったでしょうか。展示資料からすれば、大大阪と呼ばれた時代の、食文化、ファッションのように、もう少し、テーマを絞ったほうが良かったかと思いました。

新旧万博から見る大阪史

- ・新旧とあるが、新の方の展示が中途半端、展示ケースの末尾にパネルがあるが順序がおかしい。
- ・最後の円グラフはコピーではなく自分たちで作直さないと…。
- ・図録も次の万博の説明が少ない、タイトルと内容が合致しない。
- ・ポスターはデザインがよい。文字も読みやすく目に入ってくる。
- ・展示は、多くの資料をあつめ、パビリオンの設計図の原本など目玉になるものがあつた点は評価できる。
- ・ただし、解説パネルが文字を打っただけのものであり、デザインなど工夫がほしい、また、切り方や配置が非常に雑であり、もう少し丁寧な展示づくりが求められる。

- 図録は必要な条件を整えており、見やすい配置となっているが写真の中の資料が斜めになっているものなどがあり、丁寧なものづくりを心がけてほしい。
- - タイトルだと「大阪」を対象とした展示がイメージされるが、「万博」の展示では？
 - 「新旧万博」ではなく、旧万博 = EXPO'70がメインになっている。展示可能なものから構成、テーマを再考することもあり得ないか？
 - 展示に関係する館の位置やパビリオンの姿が知りたい。
 - 図録の文章は推敲が要る。
- - 青焼図面（大きいだけに）と全体バランス。
- - サイン表示が分かりづらい。
- - キャプションの文字→小さい。読みづらい。
 - アンケートの円形図→みえない。読めない。
- - なぜ70年と2025年の2つだけを取りあげたのかよくわからなかった。
 - 2025年の批判をしたのか？70年の紹介をしたのか？「70年があって今につながる」という歴史は感じられなかった。
- - 「新」の具体的内容が見えてない現在、客観的なものになりにくいのでは？「旧」だけでよかったかも。「旧」の資料はかなり充実している。多くの機関を当たっているし、著作権の確認もできている。図録の写真はもっと工夫できたはず。
- - 展示スペースに対して展示資料が過多ですが、印刷物ばかりで面白くありません。これで「大阪史」を示すことができるのでしょうか。万博を選ぶなら、第1回バリ万博からの歴史を示す必要があるのではないですか。
 - 「新旧」の「新」はどこに展示されていますか。せめて、新旧大阪万博の比較をビジュアルで展示してほしいですね。（例えば、会場の同縮尺地図、面積、エントリー数、実出展数、目標入場者数、実績入場者数、会期日数、予算額、総合プロデューサーの名前や組織などの比較、両博覧会の諸元や万博史のなかの位置付けなどをきちんと示すべきです。）
 - 「歴史」を示そうとするなら、準備期間や会期中の人口、政治情勢や経済の状態などを時代背景として示してください。
 - 万博で大阪の歴史がわかるのでしょうか。
- - 新万博の展示は難しい。テーマの設定ミス。
 - EXPO'70の資料はよくコンパクトにまとめている。
- - タイトルを大阪史としたのは何故？
 - 表紙の右下段に写真のキャプションを入れたのは良い。ただし、少し小さい。
 - 一般的に表紙はページに数えない。
 - 展示目録の目次。目次に第1章・第2章が必要ではないか？
 - 展示協力期間 → 展示協力機関
 - 目録最後の〈展示協力機関〉のところで、各機関の後にある「皆さま」は不要。
 - 展示のレイアウト・照明は良い。
 - 展示題箋の情報不足。
- - 二つの万博の展示であるが、大阪で広く受け入れられていたか、いるかを展示してほしい。

- 両者をつらぬく思想はあるのか。単なる利権のイベントなのか。
- • ポスターが、シンプルですが、良いなあと感じました。

総 評

- • 全体として取り掛かりが遅い。先生方や博物館事務室のスタッフの皆さんをもっと利用してアドバイスをもらわなかったのか。
- • 全体に図録や解説の文字の大きさは、小さすぎず良かった。(図録は逆に大きすぎると思えるものも…)
- タイトルと内容は合っている？再検討する機会を設けた方がいいのでは？
- • コンセプトの示しかた展示がリンクしていない。
- デザインはとても美しく、目を引くもので、どの班もよくできています。
- 展示の構成上、伝えたいこと、があまり伝わってこないです。
- モノの後ろにあるヒト、コトがもっと表現できると良くなると思います。
- • 展示図録に使用する画像の使用許可をとっているのか、その必要があるのか等確認が必要
- スタッフが説明した内容が解説にない場合が多い。
- 基本かつ重要なことはキャプションに書くべき。
- 展示方法や図録についてはたくさん見て「まねぶ」ことが重要。
- 図録と展示の解説が一致していない。
- • 全体として、展示資料研究、展示ストーリーの追究が浅いです。
- 展示台は少なければ少ないほどよい、と思います。使うなら吟味して、すっきりとしたディスプレイを目指しましょう。
- タイトルから展示品を想像しにくい展示が多いです。来館される方は、ポスター、チラシ(のタイトル)を見て会場に来てくださるので、展示品を想像しやすいタイトルを考えてほしい。と思いました。タイトルは展示のど真ん中を射るようにしましょう、さもないと、看板に偽りありになります。
- ポスター、パネル、ラベル、カタログのデザインが不ぞろいです。担当者を分担した弊害が露わです。すり合わせ、打合せ不足でしょうか。
- 一部に、パネル類のカッティングが雑なものやパネル、ラベルの配置が雑然としたところがありました。細かいところに注意を払ってください。
- 展示、図録とも、文体の不統一が目につきます。また、推敲を重ねて研ぎ澄まされた簡にして明な美しい文にしてください。
- 図録では、写真が小さい班がありました。写真、図は大きく大胆に使いましょう。
- ポスター、図録表紙のデザインは「万博」班が一番でしょう。(でも、あえて隷書体を採用したのはなぜでしょうか)
- • 展示構成のしっかりした展示と、そうでない展示に二分された。全体にはハタンしているものはなく、一応に形にはなっていた。
- • これまでおこなわれてきた展覧会の図録をあまり参考にしていないのではないか。また、題箋も見学してきた展示を参考にしなければならない。

2023年度 博物館実習

— 受講生のレポートから —

学芸員としての振る舞いとコミュニケーション

文20-584 古川 果林

私は、博物館実習を履修するなかで、博物館実習生として、さらには学芸員としての振る舞いについての学びを得ると同時に、人とのコミュニケーションにおける課題について考える機会が多々あったと感じた。

一年を通して多くの先生方から指導を受けてきたなかで、共通して言われたことは、「実習生としての節度ある振る舞いを心がけること」、そして「自身の態度やコミュニケーションで得る信頼の重要さ」であった。

適切な振る舞いとして最も重要であり、常に念頭におかなければならないことは、資料を大切に扱うことである。実習が始まってから、歴史資料、考古資料、美術・工芸資料など様々な資料の取り扱い方を4月から5月にかけて学び、それぞれの資料の特徴や性質の違いについて理解していった。異なる資料とはいえ、いずれの講義においても資料を大切に扱う心構えは共通しており、「髪の毛をまとめる」「爪は短く切っておく」「指輪・腕時計・ネクタイ・ネックレス・イヤリング・首から下げている職員証を外す」「大きなボタンのある服は着ない」「胸ポケットの中には何も入れない」「必ず手洗いをしてその後は髪の毛に触らない」ということを徹底して教わった。他にも、資料の写真撮影についての講義では、

撮影セットに使用したキャスター付きの机に対して資料の安全性への配慮が無いという言葉があり、照明についての講義では、資料をより良く見せると同時に資料の劣化にも繋がるという矛盾があるからこそ、学芸員が照明について理解し最適な選択をしなければならないという話がされた。また、資料の借用や運送についての講義では、資料を安全に運ぶための細かな確認や梱包の仕方を学び、拓本を実際に取った講義では、資料に墨が付かないように、たとえ拓本が取りにくくても紙を二重にして行う場合があるという話があった。これらのように講義で取り扱う内容は多岐にわたっていたが、根本的な部分として、学芸員が行なう作業のすべてには資料を大切に扱うという気持ちが何よりも重要であることを常に学んできた。

そして、資料に向き合う姿勢は人への印象や信頼に繋がっていくこと、資料だけに注視するのではなく人とのコミュニケーションにおいても真摯に向き合う重要性についても、実習で得た大きな学びである。考古資料の取り扱いについての講義のなかで、先生が「資料を借りに行く際、『どんな服を着ているのか』は相手によく見られている。この第一印象によって相手に信用されるかどうかが決ま

ると言っても過言ではなく、身だしなみや振る舞いには十分に気をつけなければならない」とおっしゃっていたことや、展覧会企画・ポスター作成・印刷データの提出方法などについての講義では、「資料を貸していただいた方はもちろん、時には図書館の人や展示について教えていただいた人などにお礼状を書く。そうやって配慮を尽くすことは、ゆくゆくは後の実習生がやりやすくなることに繋がっていく。相手は学芸員の態度や振る舞いを見ており、展示を作り上げるという強い意志は相手に伝わるものである」という話があり、これは実際に展示を経験して実感した部分である。

私の班は、株式会社社会津屋と北極星産業株式会社の2社から食品サンプルをお借りすることになり、私はその借用と返却を担当した。株式会社社会津屋では、事前に用意した梱包材で作業をおこなっていた際、「こんなに丁寧にしてくれてありがとう」と少し驚かれたことが非常に印象的で、こうして信頼を得ていくのだと、講義では話に聞いただけだったことが実感として理解できた場面であった。北極星産業株式会社へ伺った際には、創業から100年を迎えた歴史や創業に至るまでの経緯、オムライスの誕生についてのお話を聞き、「このような展示に選んでくれたことが嬉しいし、ぜひ大阪の歴史として伝えてほしい」という言葉を頂いたことで、私たちが学芸員として対等に見ていること、自社の誇りを私たちに共有してくれていることが伝わり、身の引き締まる思いであった。また、株式会社社会津屋へと返却に向かった際には、店の壁に実習展のポスターが貼られており、今までのやり取りにおいて築かれた関係性が形となって現れたような光景に嬉しさが募り、北極星産業株式会社へ返却した時も感謝の言葉を頂き、自分たちの振る舞いがこのように実を結ぶという

ことを、身をもって経験することができた。

さらに、資料の借用先とのコミュニケーションだけでなく、実習展での来館者への対応にも信頼関係が生まれていると感じる部分があった。展示を作り上げた一員として、提供する側として初めて来館者と接することになり、来館者にとって私は「展示についての責任者」であり、自分が「展示についての疑問にすべて答えられる人」として見られていることを実感した。来館者の質問にきちんと答えられるかどうかは、来館者が展示に興味を持ち続けてくれるかどうかにも関わり、曖昧な解説をしてしまったときには、学芸員への信用及び展示への興味が無くなっていることがはっきりとわかった。また、大阪についての展示ということもあって、大阪に住む多くの来館者が「北極星のオムライスを食べたことがある」「会津屋のたこ焼きを知っている」「関一が市長の頃に地下鉄の御堂筋ができた」といった話を持ち掛けてくださることが多く、来館者の記憶を呼び起こして、それに寄り添うコミュニケーションができたのも、地域の人々との交流という部分と重なって非常に良い経験となった。

人文系私設図書館 Lucha Libro の青木さんと鳥根県埋蔵文化財調査センターの鈴木さんによる公開講演会では、「人間力」という言葉が使われ、青木さんは「『学芸員だからこうした方が良い』という取捨選択ではなく、人としてどう行動すればいいのかを考えて人との縁を大事にすることが重要である」と述べ、鈴木さんは「様々な組織と連携し、仕事の内容も多岐にわたる学芸員にとって大切なことは人間力である」と述べており、人との接し方についての言及があった。

以上のように、資料を大切に扱うという最も重要な心構えと、それに伴う人とのコミュニケーションと信頼関係の重要性を学び、資

料と向き合うことと同じくらいに、資料を貸してくれた人、展示を見に来る人、展示に関わるすべての人と向き合うことも学芸員として大切なことである。このことを実習展で実際に実感できたことは、私にとって大きな成果であった。

しかし、学芸員としての振る舞いやコミュニケーションについて、実習展において一つの問題が生じたことが課題として挙げられる。それは、「来館者と学芸員」という両者の間に確実に存在する境界線が曖昧になってしまいがちになることである。展示には、非常に様々な人が来館し、来館者一人ひとりが異なる考え方を持っており、知っていることも知らないことも人によって違う。質問に答えるだけでなく、来館者の考えを聞いたり、「こんなことを初めて知った」と伝えてくれる人に「自分も初めて知ったときは驚いた」と共感したり、来館者に対して柔軟に対応することが必要であると感じた。特に、私の班の「大大阪展」は、大阪万博の展示グループと向かい合うように展示され、大阪の歴史を知ることができる空間が作られていたこともあり、大阪に住む多くの来館者のなかには日々の暮らしや過去の記憶を思い出す人が多かった印象が

ある。来館者たちが楽しそうに思い出を語っているのを聞いていると、このように人の記憶に寄り添うことも学芸員のコミュニケーションとして大切なのではないかと思うようになった。その反面、学芸員としてどこまで親身に対応すべきか、という部分が問題であるとも感じた。あまりに親しみやすく接していると、「学芸員と来館者」という境界線が曖昧になっていると感じられる場面があり、人を相手にする難しさや、そこから発生するトラブルについても理解しておく必要があると実感した。

学芸員としての振る舞いやコミュニケーションについては、相手の信頼を得てより良い展示に繋げるというプラスの面のほうが大きく、実習展でその成果を強く感じたと同時に、場合によっては人間関係のトラブルを引き起こす危険性があるということも知る結果となった。このようなトラブルを防ぐためには、対応の線引きが必ず必要であり、そのための判断力や、「私は学芸員として接しています」と相手に踏み込ませないような態度をどのように表すかという点が、今後の私自身の課題であると感じた。

博物館実習を履修しての成果と今後の課題

文20-620 マッカートニーマリア愛美

博物館実習を履修しての成果

博物館実習を通して感じた成果を、(1)代替案を提案する力、(2)実際に足を運ぶこと、見ることで分かること、(3)資料と向き合うことの大切さの3点を挙げながらここでは述べていこうと思う。

(1)代替案を提案する力

一つ目の成果は、代替案を提案する力である。博物館実習展で、おそらく私たちの班が一番準備に時間がかかり、最後の最後まで準備し、展示期間中にも何回か配置を変えるなどした。一日目の展示の様子と最終日とは大きく違っていた。実習展前日の準備の際に実際に展示ケースに並べてみて分かることが多く、早い段階から並べて展示のバランスを見ることの大切さを痛感した。博物館事務室の先生方にもアドバイスを頂き、実習展最終日までに私たちの展示で見せられる最適な形を造ろうと班員で考えた。全体のバランスを見ながら、より良い展示に変えていく過程がとても楽しかった。「ここをこうの方がいいのではないか」という発想を、採用されなくても発言することで、その案からまた新たな発想が班員の中で生まれることに気が付いた。自分の判断で、アイデアを自分の中に留めておくのではなく、共有することでより良いものになる可能性が広がることを改めて感じた。既存のアイデアがダメだからもう出来ないと諦めるのではなく、今出来る範囲でそれをどう改善するか、代替案を考える力が身についたように感じる。これは今後の人生においても大事なこととなるため、今回身につけるこ

とが出来たこの力を磨き続けていきたい。

(2)実際に足を運ぶこと、見ることで分かること

二つ目は、実際に足を運ぶこと、見ることで分かることについてである。博物館実習を履修している一年間、ほとんど毎月あった見学会のおかげで、2023年は今までの人生で一番たくさんの博物館を訪れた年となった。普段自分で行くのは、自分の興味のある展覧会ばかりで、私は美術館に足を運ぶことがほとんどである。そのため、今回の見学会では、普段自分では中々行かないような博物館施設を訪れることが出来、とてもいい経験となった。一回の見学会で二箇所を訪れるのがほとんどで、一日の中で各博物館施設の違いを比較することが出来たのも非常に面白い経験となった。どの博物館もそれぞれの特色があり、特に地域の博物館施設に関しては、その場所ならではの工夫と魅力が詰まっていると感じた。私は美術史を専攻しているため、将来学芸員として勤めるなら美術館に勤めることとなると思うが、美術館と博物館の展示の違いもとても勉強になった。例えば、美術館は美術品を魅せるための工夫をされた展示の仕方になっているため、壁の色なども単色でそろえられていることがほとんどで、作品の解説も少ない。観覧者が、作品に集中出来るような工夫になっていると思う。しかし、博物館は解説などの情報量も多く、それぞれの展示資料に合わせた展示の形を取っている。動物の骨や剥製などを展示する際には、その動物が本来生息している場所を展示空間に再現し、自然なポーズで展示されている。博物館では、

資料そのものだけでなく、その背景や特色などを観覧者に学んでもらうための工夫がされている。“資料を展示する”という点だけに注目すると違いのない施設であるが、それぞれの館の目的によって展示の仕方、資料の見せ方が違うことを体感した。

(3)資料と向き合うことの大切さ

授業の中でも先生方が度々、資料と向き合うことの大切さについておっしゃっていた。博物館実習の授業の中でも、実際に資料を扱うことも多く、今までそのような経験が無かったため、終始緊張していた。どの先生方も口をそろえておっしゃっていた、「慣れてきた頃が一番怖い。初心を忘れたらダメだ。」という言葉が頭の中に強く残っている。実習展を作るにあたって、私たちの班は班員や班員の家族の所有物を多く展示していたため、そういった資料の扱いがだんだん少し適当になっていったように感じていた。「私の家のものだから大丈夫」ではなく、展示のために借りてきたものは等しく資料だから全部等しく丁寧に扱いなさいと指摘を受けて、こういうところで慣れや甘えが出て来てしまうのだなと感じた。この授業では、毎回扱う対象が違ったため、慣れることなく、常に初心で取り組むことが出来たが、きっと学芸員になって何年も仕事をこなしていくうちに慣れが出て来てしまうだろう。そんな時に先生方のこのお言葉を忘れないようにしたいと思う。また、展示をつくるにあたって、それぞれの資料と向き合い、なぜこの資料がここに展示されているのかという意義まで考えたうえでの展示が出来ていなかったことを反省している。講評やアンケートの中でも、「資料の繋がりが分からない」や「展示の流れがない」という指摘を受けた原因もここにあると考える。また展覧会を企画する機会があれば、今度こそすべ

ての資料と向き合って、ストーリー性のあるものを作りたい。

今後の課題

次に、博物館実習を通して感じた今後の課題について、(1)計画性、(2)報連相の重要性、(3)資料に対する気遣いの3点についてここでは述べていきたい。また、これらは主に実習展に取り組むにあたって感じた点である。

(1)計画性

まず一つは、計画性についてである。7月に班を決めた段階では大まかなテーマとして、関東大震災から100年の節目を迎える2023年に、当時「大大阪」として発展したかつての大阪を取り上げることをのみを決定した。その後、9月提出の展示会企画について詳細を決定するため、初めの方は何度かzoomを使い、ミーティングを重ねた。しかし、大大阪のどの部分に着目し、取り上げるか、範囲が広く、中々詳細が決まらないまま東京での実習見学が始まってしまった。実習展の講評でも意見があったが、東京に行った際にせっかく班ごとに実習展に関連する博物館を訪れたのだからそれを少しは活かせる展示が出来ればなお良かったように感じる。そのためにも、東京見学に行くまでに具体的な展示計画を作成すべきだったと思う。結局、展示計画の提出も締め切りに間に合わない始末となってしまった。先生方が度々おっしゃっていたように、すべての締め切りから逆算して細かい計画を立てていればそのようなことにはならなかったのではないかと感じる。おそらく、私たちの班が一番ギリギリに行動しており、実習展が始まる最後の最後まで作業をしていた。今後の生活の中でも、計画性は大切であるため、今回の失敗を機に、計画性を身につけることを習慣としたい。具体的には、締め切りから

逆算して、それまでに達成しなければならないいくつかの小さなゴールを設定し、少しずつ余裕を持って取り組むことを習慣にしたい。

(2)報連相の重要性

次に、グループ内での報連相（報告、連絡、相談）についても反省したい。私を含めて9人いる私のグループだが、締め切りの確認の連絡を取り、ミーティングをしたら、それに参加出来なかった人のために随時近況や進捗をみんなで共有するなど、一見当たり前のような報連相が出来ていなかったことも、遅れにつながったのではないかと考える。10月になってから本格的な案を実現していくために、毎週決まった時間にミーティングが行なわれていた。この日程は、班員9名の空いている時間の中で一番参加出来る人が多い時間が選ばれており、私は授業があったことから、参加出来ていなかった。このミーティングで話されていた内容や決定した事項が報告されるわけでもなく、参加出来ていなかった約半分の班員は進捗状況についていけないこともあった。しかし、ここで受け身になって静かに連絡を待つのではなく、自分から積極的に情報共有を促すことも出来たはずだと今は思う。早い段階から、そのようにしていればきっともっと効率的に役割を分担し、余裕を持って取り組むことが出来たのではないかと思う。全員が積極的にきちんと報告し、連絡を取っていれば、防げた失敗もあったのではないか。今回は班での実習展だったため、こういった連絡やみんなが取り組むことの大切さが強調されるが、将来仕事をする上でも必要不可欠である。報連相がしっかり出来る社会人になりたい。

(3)資料に対する気遣い

最後に、資料に対する気遣いについてであ

る。先生方の資料に対する姿勢と、自分たちの姿勢にはとてつもなく大きな差があると感じることが度々あった。例えば、拓本の授業で、刷毛を使っている際に、資料をガタつかせている人が何人かおり、先生が注意していた時に感じた。「資料が動くようなら下に新聞や雑巾などクッションの代わりにするものを置いて下さい。ガタつかせてはいけないことなんて基本中の基本ですよ。」という先生のお言葉を聞いてハッとしました。私が使用した資料はたまたま動いていなかったものの、ガタつかせているからといって下になにか敷こうという考えにはきっと先生に指摘されるまでならなかっただろう。この一年間の博物館実習を通して、資料を大切に丁寧に扱うことなど基本中の基本で、自分は資料に触れる時にしっかり意識していると思い込んでいたが、こういったところで出来ていなかったことに気がついた。

これらの反省している点は、今後の人生における今の自分の課題でもある。博物館実習だけでなく、今まで博物館に関する授業を履修してきた上で、まだ学芸員を本気で目指すか迷っている部分が少しあり、先生方の「学芸員になろうと考えている人いますか？」の質問には手を挙げる事が出来ずにいた。実習展を通して、自分たちで展示を作る楽しさと大変さを同時に感じ、様々な仕事をこなし、締め切りに追われながらも人々の心を動かす展示会を開催する学芸員の方々は本当に凄いと改めて感じた。将来的に、自分が学芸員になることを選択しても、別の道を選択したとしてもこの博物館実習で学んだことを活かしていきたい。

1 はじめに

「新旧万博から見る大阪史」をテーマとし、計10名で実習展を企画した。このテーマに至った経緯は、班を編成した際、日本史・文化遺産学専修の学生がメンバーの大半を占めており、歴史を扱う方向で進んだ。これを前提とし、再来年に開催される大阪・関西万博がタイムリーな題材として挙げられた。関西大学は吹田市に所在し、1970年に開催された日本万国博覧会とも関連づけられ、日本万国博覧会と大阪・関西万博を比較しつつ大阪の歴史を取り上げる、という結論に至った。さらに掘り下げると、「人類の進歩と調和」をテーマとし、戦後、日本が世界に自国の技術・発展の様子を披露する場でもあった日本万国博覧会から新しく登場した技術・文化を紹介し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする大阪・関西万博から発信される新しいものには何があるのか、を比較することで大阪の発展の過程を総覧できる、というものである。また万博については、資金問題や跡地利用など負の要素も存在し、万博に完全賛成の立場をとる展示では、展示から得られる学びに偏りが生じてしまうと考えた為、負の要素も同時に取り上げることにした。

2 実習展に向けての活動

①東京実習

- ・上野公園
- ・昭和館
- ・印刷博物館
- ・お札と切手の博物館
- ・明治神宮聖徳記念絵画館

東京では万博に関する博物館が無かった為、展示の仕方で参考になりそうなテーマを扱う所に絞り、訪問した。

②万博記念公園（旧鉄鋼館の展示）を訪問

公園内に所在する旧鉄鋼館では日本万国博覧会に関する展示が行われており、世界の国際博覧会の歴史から実物の太陽の塔の「黄金の顔」まで展示されていた。入場券や海外パビリオンのパンフレットなども展示されており、実習展において当時配布された紙媒体・記念切手などを展示したのはこれに倣ったことだった。

各パビリオンに派遣されたコンパニオンのユニフォームが個人的に印象に残り、これをポスターに使えないかと考えた。

③ポスター製作

私はポスター製作を担当し、幾つかの案を班内で共有し良いとされたものを提出する方針で動いた。アプリは「illustrator」「photoshop」「powerpoint」のいずれ



かで指定されていたため「illustrator」で製作した。

3つの案を共有し、右下の案を提出した。しかし、太陽の塔の著作権の問題であったり、大阪モノレールは今でこそ万博記念公園駅があるほど日本万国博覧会と関連する鉄道であるイメージがあるが、1970年当時は主に異なった用途で使用されていたこともあり、当時を知る人からすれば、万博と大阪モノレールを関連づけるのに違和感を抱く場合もあるため、採用されなかった。

代替案Ⅰ

著作権の都合で太陽の塔のイラストを掲載することが出来なくなった際の代替案。知人に万博のイメージを伺うと「コンパニオン」とのことだったので太陽の塔の代わりに製作した。



しかし上記にも述べた通り大阪モノレールの問題や、そもそも展示に関連のないイラストは避けた方が良く、との意見が出たので採用されなかった。

展示に関連のないイラストを載せたのは、10月の時点で何を展示するか定まっておらず、目玉展示も決まっていなかった為、独断の万博へのイメージでポスターを製作していたことが原因であった。それからは展示目的からブレないように意識した。

代替案Ⅱ・Ⅲ（Ⅲが決定稿）

展示物が決まっていなかったため直ぐに年史編纂室を訪問し、編纂室が所有しているパピリオンのパンフレットや万博会場の地図を拝見し、これらを貸借する方向で動いた。ポスターの期限が迫っていたこともあり、ポス



ターに使いそうな資料を貸借しなかったのが実情である。

展示テーマは日本万国博覧会と大阪・関西万博を比較し、見えてくる「大阪の発展史」だったので、その全てをポスターに取り込むことは出来なかった。大阪・関西万博の展示物は最後まで定まらなかったため、イメージキャラクターである「ミヤクミヤク」の色合いを取り入れた。

ポスターを製作し大変だと思ったことは、展示と同時並行して作業しなければいけないことだ。ポスターは展示の内容を知らない第三者に伝わるものでなければならないので、展示物なしでは製作できない。また、あくあびあ芥川の高田先生が仰っていたよう、本当の展示だと協賛団体や新聞社の一覧をポスターに載せなければならないので、製作する前に何もかも決めておくことが大切だと学んだ。

④資料撮影

展示品の殆どが本や紙で、資料の真上にカメラをセットし撮影する方法を多用した。真上から撮影する方法は、三脚の足が画角に入ったり、レンズを覗き込むと撮影者の影が入ってしまい、撮影ボタンを押して後から写真を確認する必要があるため、骨を折る作業だった。特に撮影方法を工夫した資料を二つ取り上げる。

一つは『錯覚の道』の設計図の青焼きである。青焼きは光に長時間当たると消えてしま



うため、早急に撮影を済ませる必要があった。また撮影の際、背景にしていた紫のフェルトが青焼の紙の黄ばみを強調させていたので、フェルトと青焼の間に白色の紙を挟み、撮影した。さらに青焼きそのものが大きく、三脚を広げて撮影しなければいけなかった為、カメラの画角を合わせる事など、セット自体に苦労した。

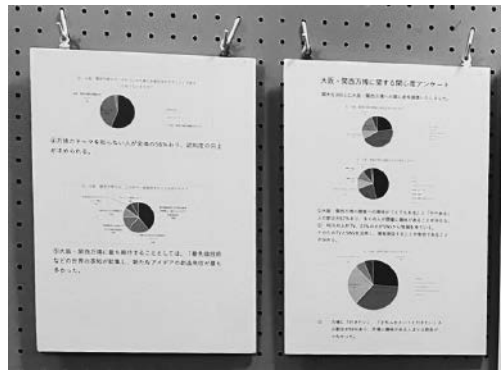
二つ目は葉・絵葉書である。葉・絵葉書は数枚セットで、全て撮影するわけにもいかななく、数枚選択し、撮影することにした。葉はパビリオンごとにあり、扇型に並べることで華やかに見せるようにした。また国の位置関係も考慮に入れ、近隣している国のパビリオンの葉は横に並べるなど、資料写真を見て違和感を感じないように心掛けた。

⑤アンケートの作成

大阪・関西万博の展示を作るにあたり、大阪・関西万博は人々にとって身近なイベントであり、関大生も例外ではないと考えた為、関大生300人を対象としたアンケートを google form で作成し、集計結果から分かったことをパネルで展示した。

アンケートの項目は

- ①大阪・関西万博に関して興味があるか
- ②大阪・関西万博に関する情報はどこから得ているか
- ③大阪・関西万博に行きたいと思うか



- ④大阪・関西万博のテーマを知っているか
- ⑤大阪・関西万博に最も期待することは何かの5つである。

当アンケートは、現在メディアで万博の費用やパビリオン出展辞退等の報道がされている通り、世間が万博に対して不安を抱くなか、関大生の万博に対する実情を問うものである。結果は世間の万博に対するイメージよりもプラス側にあるようだった。アンケートはパネルに起こし、右の写真のように掲示板に展示した。

アンケートの配布は、主に班員が受講している授業の担当の教授にお願いし、講義内に呼びかけて頂く方法を取った。しかし講義を受講している全ての学生が答えるわけでもなく、元々500人を対象としていたが、300人に止まってしまった。また教授の中には万博に良いイメージを持たない方もおられ、アンケ

ート配布をお願いしても断られることもあった。そういった場合には、私共の展示が決して万博を肯定する主旨を持つものではなく、同時に負の側面にも触れることも伝えた。

⑥資料の貸借

主に年史編纂室が所蔵している資料を貸借した。貸借した資料は下記の通りである。

- ・ダイタラザウルス 乗り物券
- ・ぼくとわたしと家族のための日本万国博覧会
- ・BRITAIN 館 パンフレット
- ・日本館 パンフレット
- ・ブルガリア館 パンフレット
- ・ソ連館 パンフレット
- ・オーストラリア館 パンフレット
- ・EXPO'70サービス施設図京阪神地図
- ・日本万国博覧会 入場券（大人1枚・子供1枚）

万博に関する展示はどうしても記念硬貨や切手に偏ってしまいがちだが、当時日本万国博覧会に訪れた吹田市在住の方が年史編纂室に寄贈した資料があり、展示内容を充実させることができた。また日本万国博覧会 入場券（大人1枚・子供1枚）は年史編纂室の伊藤先生から貸借したものである。

3 展示作業

展示は『第1章 日本万国博覧会』『第2章 大阪・関西万博』で構成し、資料を並べる順番は主に来場客の会場での動線を辿るよう流れを組んだ。大まかには、入場券→パビリオンのパンフレット→会場内地図→『太陽の塔』模型→記念硬貨といった順番で構成した。

展示資料は紙のものが多く、これらを傷めないような展示方法を心掛けた。パンフレットには留め具などは使わないようにし、冊子類も開いて展示する場合には、本立ては使わず台に平置きした。



展示資料を一式収集した際、難点となったのは、資料の殆どが立体的でないため、見栄えに欠ける恐れがあったことである。これに関しては、開いて展示をしない冊子類は本立てを使うなどの工夫をした。また、『太陽の塔』の模型には、背後の「黒い太陽」が見られるよう鏡を設置するなどし、高さや奥行きを意識した展示を行なった。

下の写真の『EXPO70 PANORAMA GUIDE MAP』は縦・横幅共に大きく、平置き展示ができないと判断し、壁に展示することにした。



マップを傷つけないよう、パネルに粘着力の無い透明なテープをマスキングテープで留め、パネルとテープの間にマップを挟み展示した。しかしパネルとテープの密着具合だけではマップがずり落ちてきたので、発泡スチロールを小さく切ったものをパネルの下方に留め、マップがずれ落ちるのを防いだ。

次の写真は『日本万国博覧会政府館4号館「錯覚の道」実施設計図』で、覗き台に展示し



た。青焼で、照明の加減で文字や線が消えてしまう恐れがあり、実習展期間は毎日開くページを変えつつ展示することにした。

4 実習展の評価

主に先生方から頂いた主な評価は以下の通りである。

- タイトルと展示の整合性がない
- 『新旧』は「陰と陽」を彷彿とさせる←万博の負の面にもっとスポットを当てるべき
- 2025年大阪・関西万博の展示内容が薄すぎる
- 1970年日本万国博覧会の資料に関してはよく収集できている
- キャプションの文字スタイルが統一できていない
- キャプションの枠がガタついている
- 壁に展示した地図の展示方法が不安定（資料を傷つけかねない）
- 1970年→2025年と展示の流れがあるのに、最後に1970年の設計図（青焼）を展示すると、流れ的に違和感を感じる
- 『太陽の塔』の模型の「黒い太陽」が見えるよう鏡をおいたのは良い
- 展示の流れ的にパネルは縦書きの方が良い

った

- アンケート結果の文字が小さすぎる
- アンケートの対象人数300人は少ない

5 おわりに（実習を通して学んだこと・今後の課題）

博物館実習を履修し、学芸員にとって一番大切な心構えは「念には念を」だと思った。実習展の立案に関しても、準備段階で展示の完成形や「こうすれば正解」というものは見えることはなく、学芸員の仕事は終わりのないものであると実感した。しかし、展覧会まではいくらかでも「こうした方が良い」とか「最初の案の方が良かったのでは」と立ち返ることもできるので、時間の許す限り試行錯誤する必要がある。そして試行錯誤するには様々なアイデアや展覧会までのスケジュールを念頭に置いておく為に、「念には念を」を前提として取り掛かるべきだと思った。また資料の取り扱い・運び方・貸借手続きに関しても気を付けなければならない項目が多くあり、そういった点でも「念には念を」を前提に対策を練っておく必要があった。

私の班は準備に取り掛かるのが遅く、展示に関して断念や妥協しなければいけないことが多くあり、試行錯誤する時間が無かった。そのようになってしまったのは「念には念を」という心構えが班員に欠けていたからであると考え。現在学芸員として働く計画は無いが、何かを企画し実現させなければならない場面は必ずやってくると思う。そのような場面でも心構えとして「念には念を」を念頭に置き、軸思考で活動していこうと思う。

博物館実習で得た知識と活きた経験

物21-49 下村 直輝

博物館実習を通して、学芸員として必要な知識や技術を学ぶことができた。それと同時に学んだ内容を実践として活かすことが必要な機会も数多く経験した。講義を通して学芸員に必要な知識を得ることができ、実技を通して学芸員が行う仕事を実際に体験することができた。主に日曜日に行われた博物館等施設見学では、様々な博物館の展示における工夫や、資料の保存方法について知ることができた。そして実習展では、展示計画から始まり、講義や実技で得た経験の全てを発揮することが求められた。博物館実習から得た全ての経験を活用していくため、学芸員において重要なことや実習で学んだ内容を特に実践として活かすことができた機会について考える。

実習で得た知識の中でも特に重要だと考えられるのは資料の取り扱いである。博物館における資料は様々であり、それぞれ取り扱い方も異なる。その上資料の状態も良いとは限らないため、間違った取り扱いをした場合、破損につながる恐れもある。そのため、全ての資料において細心の注意を払った上で、正しい知識の下で取り扱わなければならない。博物館実習を通して学んだ様々な資料の取り扱い方やその違いについて考える。

資料取り扱いの心得について述べる。資料を取り扱う前に、指輪、時計、ネクタイ及びネクタイピン、ネックレス、携帯電話を取り外すことが必要である。資料に触れることや、傷をつけたり汚したりすることを防ぐためである。また、資料を確認する上で筆記用具を用いることがあるが、胸ポケットには入れないようにしなければならない。そして髪の毛や手の爪の確認を行い、手を洗った上で資料

の確認を行う。資料の確認では、周りの状況を確認し、資料の状態から触ることや動かすことができるかを判断する。その際、担当者に対して「何処を持って大丈夫か」などの確認をするより危険を無くすることができる。資料を取り扱うときは必ず両手で持つこと、自分自身が資料に近づくこと、資料を高く持ち上げないことなどを常に意識することが必要である。博物館の学芸員は資料の借用において信頼関係が最も必要であると推測できる。資料取り扱いの心得が取り入られてなかった場合、資料の借用が不可能となる可能性が高い。そのため、これらの心得を守ることが学芸員としての信頼を維持する上で重要なことであると考えている。

博物館実習で学んだ知識を活かすことができた体験として学芸員インターンシップが挙げられる。学芸員インターンシップで得た経験について述べる。私は8月～9月の間の5日間、高槻市立自然博物館の学芸員インターンシップに参加した。学芸員インターンシップでは学芸員として必要な知識や技術を学ぶだけでなく、博物館実習で学んだ知識や経験を活かすことができる機会が非常に多かった。例えば、保存されていた生物の剥製を取り扱う際には身につけていた名札や時計を取り外すことを意識して行うことができた。これは博物館実習の講義の中で資料の取り扱いの基本姿勢を学ぶことができたからだと考えている。高槻市立自然博物館は自然に関する資料を収集、保存し、展示している博物館である。そのため、昆虫の標本や鳥の剥製といった生物標本の取り扱いを主に経験することができた。業務の一つとして剥製の梱包を行った。

龍谷大学の博物館実習展の展示資料として、剥製を貸し出すことになったのである。剥製を運ぶ際に必要な梱包作業を業務を通して学ぶことができた。剥製の梱包作業は、大きなダンボールと紐を使うことで行われる。ここで着目したのは、生物に関する資料と文化財に関する資料の梱包についての違いと共通点である。博物館実習では歴史資料や考古資料、美術資料といった文化財に関わる資料の取り扱いについて学んだ。その中で、美術工芸資料の梱包では、梱包材料の種類として薄葉紙、ハトロン紙、ポリエチレンラミネート紙、エアークラップ、薄葉紙の紐、ビニール紐、オリブテープ、巻ダンボール、綿などが挙げられる。また、梱包作業では、資料を薄葉紙で直接包み込む。その一方で、鳥の剥製を梱包する場合、用意する梱包材料はダンボールとビニール紐の2種類のみである。剥製の土台となる部分をビニール紐でくり、ダンボールの一面に固定させる。これにより、剥製が固定されてダンボール内で動くことがなくなる。そしてダンボールを閉じることで梱包が完了する。運ぶ場合はダンボールを逆さまにしないことが必要である。美術工芸資料の梱包と鳥の剥製の梱包の違いはダンボール内の密度であると推測できる。美術工芸資料の梱包は箱の面に当たらないよう薄葉紙を詰め込むことで資料が動かないよう固定する。鳥の剥製は翼や羽毛が当たることを防ぐために土台のみを紐でくり、ダンボールの一面に固定されるのである。ここで考えられる共通点はどちらも箱の面に対して当たらないことを目的としていることである。梱包は資料借用の際に持ち運ぶことや別の場所へ移動させるために行う。そのため、資料そのものが箱の面に当たらないよう工夫されていると考えられる。

また、展示の工夫について考える。数日後に龍谷大学の実習展から資料の返還が行われ、

剥製を展示ケースに戻す業務を行った。その際、ただ元の位置に戻すだけでなく、剥製の向きや位置の調整を何度も行った。剥製の鳥の姿が変わることはないが、配置する位置や向きによって見栄えが大きく変化したように感じた。剥製を配置し、確認した上で少しでも違和感があった場合、向きや位置を少しずつ変えていくといった作業を繰り返した。それに伴い、周りに配置された他の鳥の剥製と重なることがないように調整しなければならないため、時間をかけ慎重に行う必要があった。剥製の位置と向きの確認と調整を繰り返した結果、違和感のない納得のいく位置に展示することができた。それと同時に、博物館の展示において展示資料が来館者に対してどう見えるかを考えることの重要性を理解することができた。それぞれの資料の姿形によって最適な見え方となる配置があり、何度も修正を行うことでそれを見つけていくことが展示において重要であると考えられる。これまでの博物館等施設見学では様々な博物館の展示を見学してきたが、どの博物館も展示において向きや配置に違和感を感じることはなかった。それは全ての博物館が資料と向き合い、それぞれの展示資料が最も良く表現できる展示ができるよう工夫されているからであると推測できる。特に博物館等施設見学の東京都下見学で来館した国立科学博物館では、数え切れないほどの標本が展示されていた。しかし、全ての展示資料が重なることもなく、最適な配置で展示されていた。そのため、それぞれの標本からその生物についての生態系を感じ取ることができた。博物館における展示では、資料を「見せる」だけでなく「感じる」ための表現力が必要であり、それを引き出すためには資料の最適な見え方を求めていくことが必要であると考えられる。これは、実習展において活かすことのできるきっかけとなった。

実習展では「大大阪」についての展示を行い、資料から大大阪時代の大阪市を伝えることを目的として取り組んだ。大大阪時代の流れを表現するためにはそれぞれの展示資料の配置を考えることが必要である。それと同時に、一つ一つの資料に対して最も適した位置や高さを考えることが求められる。例を挙げると、書籍を開いて展示する場合、展示ケースの光の当たる角度によって見え方が異なる。それだけでなく、来館者に対して注目すべき箇所を見せるためにも適切な位置の調整が求められる。このような展示資料に対する適確な配置において学芸員インターンシップで得た経験を活かすことができたと思う。これらを踏まえ、学芸員インターンシップと実習展は博物館実習で学んだ内容を存分に活かすことのできるとても良い機会であったと思う。

博物館実習を履修したことで学芸員に必要なスキルを修得することができた。講義や実技で学んだことを学芸員インターンシップや実習展で活用できたことが自分自身にとっての大きな成果だと考える。また、今後の課題として、実習で学んだことや感じたことを博物館を通して様々な人に伝えていくことを目標にしようと考えている。私は将来、科学館の学芸員として研究していきたいと考えている。そして、科学の魅力や面白さを伝えていくことのできる学芸員を目指している。そのためには、伝えるための表現力や高いコミュニケーション能力が必要だと考えられる。博物館実習で学んだことを継続して活かすためにも多くの人に伝える技術を高めていくことが必要であると思う。

